



# 東京歯科大学広報

受け継いできた百二十年  
これからも、そのもっと先も。



東京歯科大学は2010年に創立120周年を迎えます。

20世紀が間近に迫った1890年。本学の創立者である高山紀露が、本邦初の歯科医学教育機関となる前身の高山歯科医学院を興したところから本学の歴史が始まります。以後、高山紀露の継承者である建学者の血脈守之助は、ヒューマニズムを育成の基幹に据え着々と発展させて、多くの優れた人材を世に輩出しました。高山、血脈の創立・建学の精神は、時代の教師と学生に脈々と受け継がれ継承発展してきました。その膨大な情報量と想いの数々を、我々は世紀を超え受け継いでいくのです、これからも、そのもっと先も。



**継承と発展**  
東京歯科大学創立120周年

2008年12月  
2009年1月  
**234号**

本号の主な内容

- ・東京歯科大学の将来構想
- ・金子 譲学長年頭挨拶
- ・訃報 佐藤徹一郎名誉教授ご逝去
- ・2008年の回想&2009年の抱負

# 東京歯科大学の将来構想

学 長 金 子 讓

## 作成趣旨

### 東京歯科大学の誕生と近代大学行政

日本の歯科大学・歯学部は国公立を問わず現在厳しい環境の真っ只中にある。財務状況、歯科医師需給調整、公的支援減退などによって、存続が保証されている歯科大学・学部は限られた国立大学を除いてもはや一つもないのではないかと懸念されている。しかし、このような状況は歯科だけに限ったことではない。特に全国約570校の私立大学は約35%が赤字法人であり、50%弱が定員割れをきたして、有名ブランド総合大学でさえ少子化のなか激しい受験生獲得競争を展開している。

東京歯科大学は2010年に創立120周年を迎える。高山歯科医学院として東京の芝伊皿子に開学した歯科医学校は、明治時代の歯科への偏見、昭和まで続く官尊民卑の高等教育行政、太平洋戦争敗戦まで置き去りにされた歯科医教育制度のなか、歯科医学専門学校、旧制大学、新制大学、大学院設置と発展してきた。ここに至るまで血脇守之助を中心とした先人の苦難はわれわれの想像を超えていただろう。

明治初期に西洋学問の輸入装置（天野郁夫）として誕生した東京大学（明治10年）の前身から形成されてきた大学制度は、国家の一握りの指導者養成機関であり、大正7年（1918）にようやく大学令が発せられそれまで専門学校であった早稲田、慶応など私立10校が過重な財政負担のなか大正9年に大学に昇格した。この大学令で歯科医学専門学校は大学への道を閉ざされ、以後敗戦による占領政策による教育改革のときまで省みられることがなかった。大学令に歯科を含めなかった当時の政府は、歯科では研究の必要がないという考えであったと理解される。

昭和21年11月2日空襲による類焼を免れたかつての水道橋校舎の1階中央ホールで、奥村鶴吉新学長のもと東京歯科大学設立記念式典が挙行された。その年の7月に歯科医学専門学校から我が国で最初に大学設置を認可されたための式典で、優れぬ健康状態を圧して出席した血脇守之助は、自分の生涯の願いはここに成就されたと万感の思いを込めた挨拶をした。それは出席者に「私学の苦節は厳たり」と校歌の私学に歯学をかぶせた戦いの道を思い起こさせるものであったという。

我が国の大学制度は明治以来2つの大きな大学改革を経て今日に至っている。一つは連合国最高司令官総司令部（GHQ）が主導した昭和21年（1946）からの教育刷新委員会による民主化を基本にした改革である。それまで、旧制高等学校、専門学校、師範学校、大学、帝国大学などさまざまな高等教育機関を6・3・3制の上に4年制大学を一元化し、旧来と全く違った制度にしたことである。二つ目は1990年代の行財政改革の一環として動き出した大学改革で、大学の設置基準の大綱化（規制緩和）と事後評価を主体とした大学の市場化であり、国立大学の法人化はその大きな変革の一つである。

昭和39年の東京オリンピックをばねとした日本経済の高度成長は、日本の大学とくに私立大学の高度成長でもあった。戦前10%にも満たなかった高等教育就学者は現在では短期大学を含めて18歳人口の50%にも達するようになった。大学はエリート養成から、マスの若者の場となり、さらにはユニバーサルアクセス型へと進むとされている。

現在の大学市場化は、大学の競争を意味し、第二の改革によって大学の性格はアメリカ型にほぼ

完全に置き換わったことを意味している。明治政府は官立大学の理念、組織、運営をドイツにその範を求めて、私立を専門学校にとどめて官学の競争相手にさせることなく、官学庇護の下その育成に努めてきた。この政策の根底はアメリカ型教育制度とした戦後においても継続された。明治初頭の近代高等教育制度の発足以来、1世紀半近くわたってわが国の高等教育は、政府・文部省の厳しい「各種規制」のもとに置かれてきたが、第2回目の改革によってついに21世紀の高等教育政策のパラダイムは変わったと認識される。

### 高等教育政策の現状

21世紀社会は「知識基盤社会」であり、高等教育の重要性は人材が資源であるわが国ではますます増してくる。グローバル化が進展していく日本社会で、大学の将来のあり方に関する答申が、平成17年に中央教育審議会から文部科学省に出されている。大学教育は現在なお改革途上にあるが、改革の激しい動きの源流は国際的な「巨大潮流」と国内的な変動要因にあるとされている(天野郁夫)。

「巨大潮流」の第一は、大学の大量化である。第二次世界大戦後の大学就学率急増は世界的な現象であり、これによって「知」の場としての大学は「質」的な低下が起きざるを得ない。こうしたことから大学院が「知の創造」の重要な役割として高等教育システムに組み込まれてきている。第二は「市場化」である。元来私立大学は学生獲得、資格取得、優秀な教員獲得、就職、さらには資金獲得で競争せざるを得なく、したがって以前から市場化の中にあった。今国立大学は法人化となり、まだまだ国の厚い保護を受けているが資金獲得、経営面での市場化が始まり、それは国立大学の「私学化」を意味すると指摘されている(天野郁夫)。第三はグローバル化である。大学の学位制度や評価制度のグローバル・スタンダードはアメリカが提供者である。それは歯学教育においてもPBL、CBT、チュートリアルなどなどのカタカナの教育方法導入をみれば身近なところでも明白である。

教育改革の国内要因は第一に「人口変動」である。18歳人口の減少によって、それまで膨張してきた大学、特に私立大学は「定員」から「質」の確保までさまざまなレベルで自校存続のために、経済低迷の中にあって管理運営、経営の全面的な見直しを迫られている。第二は、「経済変動」である。高等教育の在り方が将来の日本活性化のための国際戦略として位置づけられたのは、日本の経済成長が低いことを想定しているからである。グローバルに勝ち抜くためには我が国は先端科学技術開発が必須であるとされたことから「知の創造」が教育改革の課題とされている。

平成20年文部科学省は、高等教育改革支援事業の趣旨を国公私立を通じた「競争と連携」とし、教育研究に関する多種多様な競争的資金に関する従来からの継続新規プログラムや事業を展開している。第三として「政策変動」が挙げられている。1980年代の中曽根政権発足からの「規制緩和」と「構造改革」の経済政策が教育政策にも及んだ。大学設置基準の改正は、各大学の個性化と、教育研究の効率活性化、多様な人材育成のための学部内容の自由な編成をもたらした、これまでなかった学部をも新生させた。しかし、こうした改革は同時に「大学の自己責任」を問うことであり、大学人に染み付いたドイツの気風である研究重視教育軽視は、教員評価の導入とともに教員の意識改革を迫っている。

### これからの東京歯科大学

東京歯科大学は、120年の歳月を経る時を契機として、30年過ぎた稲毛から水道橋の地に戻る。第二の教育改革は従前の設置基準に規定されていた重要な規制を緩和したことから、大学は自己責任のもとに大学の個性化を強め、多様な人材育成をするようにと文部科学行政は誘導している。国はこの支援として競争的資金を広範に整え、国公私立共通の競技場で争う制度を進展させている。

東京歯科大学は、一歯科大学として学部を超えて他の国公私立大学と対等に戦えるのである。こうした環境は戦前の歯科医学専門学校時代では夢物語であったであろう。国内のみならず国際的な競争が可能な現在は、東京歯科大学のミッションを発展させるためにはこれまでにない好機である。しかし、用意された「競争と連携」という大海へわれわれが挑戦しなければ、先人の努力によって得られた成果は早晩藻屑となる。

昨年末米経済の破綻から連動した世界恐慌、歯科医師過剰問題、不況業界と社会的認知された歯科界、受験生の急減など歯科を取り巻く環境は厳しい。厳しいというよりは歯科界は崖っ淵である。しかし、だからといって右往左往する必要はない。東京歯科大学としてのミッションはどのような状況でも普遍だからである。大学は建学の精神のもと教育・研究・診療の発展を目指し、これらによって歯科医学・医療と社会に貢献をすることだからである。

われわれには競技場での競技種目は決まっているということである。したがって各競技での到達目標を定め、そのための方略を計画しなければならない。われわれの歯科大学は、その性格上教育・研究・診療が三位一体として機能しなければならない。教育・研究を欠いて診療に特化した歯科大学はありえないし、また教育だけが突出した歯科大学は、歯科医師としての人材育成にはアンバランスな大学となろう。それは短期間「知の伝達」は効果的にできても研究・診療機能が弱体化していれば、大学の根幹である「知の創造」と医療人として大事な「医療倫理の現場教育」が不足し、その状況は教育に反映するからである。

時代に沿った歯科医学教育改革と歯科医師育成の将来像は文部科学省と厚生労働省において提示されている。こうした社会的コンセンサスを基盤にして東京歯科大学の存在が価値あるようわれわれの意思を人材育成・研究・診療に生かしていかなければならない。

東京歯科大学の将来は、新しい歯科医学教育の展開によった歯科界の次代を背負う人材育成、世界的研究拠点となり得る研究体制、地域医療として信頼される高度先進医療施設などの策定と実行そして評価に懸かっている。

現在の歯科における社会的環境の厳しさとは別に、歯科医学・歯科医療は従前のパラダイムを変えて人々の健康とQOLに個人の人生サイクルで大きな貢献が期待されている。歯科医学・歯科医療の開拓余地は洋々としている。

われわれの先達の行ったアメリカ歯科医学の導入は、開国日本への西洋文化文明の伝道でもあり、また歯科医学・歯科医療をもってして当時の医学医療の概念を変えたことでもあった。時代に適合した新しい東京歯科大学を水道橋で展開する。グローバルな新しい歯科医学・歯科医療の創造に向かいたい。本将来構想はその骨子である。

#### 【参考資料】

- ① 小原芳明『シリーズ 教育の経営 3巻 大学・高等教育の経営戦略』玉川大学出版部、平成12年12月20日
- ② 天野郁夫『高等教育シリーズ136 大学改革の社会学』玉川大学出版部、平成18年3月1日
- ③ 草原克豪『日本の大学制度—歴史と展望』弘文堂、平成20年4月15日
- ④ 我が国の高等教育の将来像(答申)平成17年1月28日(文科省)第3章新時代における高等教育機関の在り方

# 東京歯科大学の将来構想

## 本学の目標

「伝統に基づいた先導性ある高機能大学を低経費のもとで目指す」

## 項目

1. 東京歯科大学としてのミッションの遂行について
2. 21世紀東京歯科大学としての望ましい歯科医師像とその育成法について
3. 学部・臨床研修・大学院における人材育成の一貫性における優位性について
4. 大学の「競争と連携」における国内外戦略について
5. 学生教育における建学の精神、校風の伝承について
6. 講座における研究のあり方について
7. 国家試験対策と臨床医育成の整合性について
8. 大学院改革について
9. 大学の知的資産の財務貢献について

## 1. 東京歯科大学としてのミッションの遂行について

大学は本来、教育機関である。すわなち、「知の伝達」がその第一義的な役割である。このためには、研究活動を通じて伝達すべき「知の創造」を実践し、臨床と社会貢献とを通じて創造した「知の応用」を実現する。

東京歯科大学の建学の精神は、「開拓精神」、「国際性」、「識見」、「指導性」としてまとめられる。これらの精神のもと、校是である「歯科医師である前に人間であれ」を「知の伝達」、「知の創造」、「知の応用」の中でどのように実現し、実践していくかが東京歯科大学としてのミッションの遂行そのものである。

東京歯科大学の育成する人材像は、人間性と教養をそなえた (1) 患者中心の医療をエビデンスに基づいて実践できる歯科医師、(2) 研究マインドを持ち、エビデンスを創りながら国内外の社会・歯科界をリードする歯科医師、(3) 優秀な後進の育成に力を注ぐ歯科医師であると考えている。そこで、これらの人材を育成すべく、水道橋移転を契機に教育・研究・臨床のあらゆる面で必要な改革を行う必要がある。この際、いかにして高機能低経費を実現するかが極めて重要なポイントであり、この点を踏まえながら、具体的な対応策について、この後の各項目の中でまとめる。

## 2. 21世紀東京歯科大学としての望ましい歯科医師像とその育成法について

18歳人口の減少や歯科医師過剰感によって歯学部志願者数が減少すると同時に、周囲に3歯学部が存在する歯学部激戦地であるという水道橋の土地事情から、大学間における優秀な学生の奪い合いと患者による大学の比較が厳しさを増す。一方、近年の学生はすぐに正解を求めたがる気質があり、自分で考える努力が少ないために応用力の低下が指摘されている。加えて、患者の医学知識の増加で診療参加型臨床実習が困難になる上に、国家試験の難度が上昇し、併せて学生定員の削減が見込まれる。このことは更に、研究・臨床・教育能力の維持・向上を至上命題としつつ、大学経営の健全化のために教員数を削減する必然性を生じさせる。

21世紀の東京歯科大学が育成すべき望ましい歯科医師像は、前項で論じた東京歯科大学としてのミッションとして育成する人材であり、この実現のために次に述べるような対策が必要である。

学生数減少と学生気質の変化に対応するためには、以下のことが考えられる。

- 1) 教育方略の見直し  
少ない教員で効率の良い教育を実践する。e-Learningの推進が有用である。
- 2) エビデンスに基づく医療を実践できる教育の充実  
口腔科学研究センターを中心とした研究の成果を教育と臨床に反映する。
- 3) コミュニケーション教育・倫理教育・医学教育の充実
- 4) チューター数が少なく済むPBL  
高学年の問題解決型PBLで実施可能である。
- 5) 講義をシナリオに基づく問題志向型で実施  
講義のモジュール化を検討すべきである。
- 6) ミニマムリクワイアメントを明確化して授業全体を70-80%程度に削減  
余った時間をアドバンスコースやシミュレーション実習等に活用する。
- 7) 学生の個々のレベルに応じた学習方略
- 8) アドバンスコース  
優秀な学生には研究マインドの養成や国内外における学外研修の期間を与える。

臨床実習の改善のためには、以下のことが考えられる。

- 1) シミュレーション実習の推進  
教育面での産学連携として、業者の冠名シミュレーション実習室の設置を検討すべきである。
- 2) 総合診療科方式の臨床実習  
診療計画立案については指導歯科医・研修歯科医・臨床実習学生による屋根瓦方式の実習が有効であると考えられる。
- 3) 診療基本術式ライブラリーの製作  
教育資源を蓄積し、学生の充実した自習を促す。

教員数減少に対しては、以下のことが考えられる。

- 1) 教員の役割分担  
基礎系教員は「研究」+「教育」を担当する。  
臨床系教員は「診療」+「教育」+「研究」を担当する。  
この際、臨床系教員が基礎科目の講義を一部担当する。
- 2) 非常勤講師・臨床教員の活用

加えて、今後の歯科医師にとって十分な医学的素養を持っていることが極めて重要であることを踏まえ、以下の点についても検討すべきである。

- 1) 歯科医学教育開発センター分室の設置  
歯科医学教育開発センターの一部機能を市川総合病院にも持たせ、分室の責任者を置くと共に、センター分室に医師、歯科医師（併任でよい）と専任事務職員を配置する。  
分室では歯科医学教育開発センターとの密な連携のもとに以下の機能を果たす。
  - (1) 歯科大学における医学教育を時代のニーズに沿ったものにするための研究と発表
  - (2) 新しい効率的な医学教育法とカリキュラムの作成と実施

今まで各科独自に行ってきた医学系カリキュラムの編成などをセンター分室に一元化することは極めて重要と考えられる。

以上の対応策を実践していくためには、安定した病院収入の確保とhigh performanceな教員の養成、および水道橋、市川、千葉の3診療施設における臨床と教育の役割分担の明確化が必須である。新しい3診療施設のコセプトを以下にまとめる。

東京歯科大学新水道橋病院は、1) 地域歯科医療の拠点となる高度先端先進医療機能 2) 教育重点型診療機能とが共存できる部門配置とする。

1) 高度先端先端歯科診療部門

地域歯科医療拠点として高度先端先進医療を行う専門診療部門を設ける。これは大学病院としての基本機能である。

2) 総合診療部門(教育重点型診療部門)

本部門は登院学生、研修歯科医、大学院生を対象に教育・研修の主体的な診療部とする。学生は「外来診療フロア」から移動せずに患者の初診から終診までを担当し、全身状態を配慮した一口腔単位の治療、各科の連携を学習する形を主体とし、各専門診療科では高度先端先端歯科医療を理解させる。

「外来診療フロア」では総合歯科診療医および臨床各科の医局員が専門性を活かしつつ総合診療を行うとともに臨床実習教育を行う。

新千葉病院は、地域住民のため、地域の病院や開業歯科医などとの医療連携を中心に考えた医療連携紹介型病院あるいは歯科医療センターとする。黒字経営が必須である。

- 1) これまでの紹介患者の受け入れ状況から、口腔外科などの需要の多い診療部門を中心にコンパクトで機能的な形態とし、その他に科別収支が良好な診療科を併設する。
- 2) 総合的な歯科治療が行えるよう一般歯科診療科を設置する。
- 3) 今後の自費治療患者の増加を考慮して、特別診療室を設置し、自費治療に対応可能な臨床各科の専門医を配置する。
- 4) 休日診療も考慮する。

東京歯科大学市川総合病院オーラルメディスン・口腔外科は総合医療連携強化型診療科を目指す。

- 1) 歯科大学附属の総合病院歯科・口腔外科の特色を生かし、口腔外科のみならず、オーラルメディスンとしても医科との連携を十分に図り、歯科医科共通疾患または境界部疾患への対応を充実する。また、超高齢社会において医療安全の面を考慮し、ハイリスク症例の歯科治療および口腔外科手術を担当する。口腔機能の正確な評価を行い、その管理・維持・向上を目指し、口腔外科手術後のインプラント治療等を用いた口腔顎顔面補綴による機能再建、脳血管障害後遺症患者を含めた摂食・嚥下リハビリテーションなどに積極的に対応する。
- 2) 口腔顎顔面外科センター的役割(東京歯科大学口腔がんセンターの支援を含む) 担う診療科とする。

以上の3病院においては高度専門性のある力を有した歯科医師については各病院間での診療が可能となる方策を考慮する。

### 3. 学部・臨床研修・大学院における人材育成の一貫性における優位性について

卒前・卒後（臨床研修と大学院）を通じた一貫性のある人材育成によって臨床・研究・教育能力の段階的修得が容易になるばかりでなく、大学の建学の理念や基本方針を理解させやすい。このことは、大学全体として次世代の指導者（研究・臨床・教育）を養成する上で有利である。実効性のある一貫人材育成のためには、臨床・研究能力の段階的カリキュラムの構築と東京歯科大学の育成する人材像として項目1に述べられている事柄を評価とした優秀な学生・研修歯科医・大学院生が次のステップに優先的に進める仕組みが必要である。同時に、助教以上の本務教員の採用・昇任に際しては講座・研究室主任のみの判断に任せず、適切な委員会等で検討する仕組みが必要と考えられる。また、学生や若手研究者に対する学会賞等の顕彰についても、大学全体で取り組み、推進していく必要がある。

この際、現状における大学院の定員充足率は100%以上であるが、本当にすべての学生が大学院に入学したかったのかを考慮しておく必要がある。臨床研修修了後に行き場がないために大学院に入学した学生がいたとすると、大学院修了後にも行き場がない可能性がある。このような学生をそのまま本務教員に採用することは、優秀な人材を登用するチャンスを逃すことにもなりかねない。同時に、優秀な研修歯科医を集めるために、選考などの際に一層の配慮が必要である。ただしこの場合、本学出身で他施設に出にくい研修歯科医をどうするかについても対応を考えておく必要がある。

一貫性を持った人材育成の実現と学生の上位・下位の区別化とは、優秀な学生を次世代の指導者として育て上げるという観点からすれば表裏一体の関係である。また、有為な卒業生の他施設研修を推進しながら、その後の大学復帰方策を考えておかなければならない。

### 4. 大学の「競争と連携」における国内外戦略について

現在、教育においても研究においても、資金獲得のための競争環境が激化し、その競争は文部科学省による国公立大学通じた大学教育改革の支援事業を始めとして、厚生労働省、経済産業省等、その土俵は広い。研究活動における世界的レベルでの競争を勝ち抜くためには、学内はもとより学外共同研究を積極的に推進しなければならない。研究を口腔科学研究センターに集約化することによって、効率よい共同研究が実施可能となる。また、研究を集約化してコア研究を推進し、講座間の壁を取り払って、臨床疫学、translational researchや基礎研究ユニットなど、時の必要に応じた体制を適切かつ速やかに構築できる組織（research institute）を作る。大学院生の研究はこの場で行うことを原則とする。これによって、研究センター全体として同じテーマのプロジェクトに力を集中することができるので、規模の大きな研究に対する外部資金の獲得が期待でき、長期的な視野に基づく機器の共同購入が可能となる。同時に優れた研究に基づく産学連携を推進し、新技術や新素材の開発などによる特許の取得など知的財産の蓄積にも努力を傾ける必要がある。更に、病院内に研究成果を臨床応用するための研究室を設置することも重要である。

コア研究の設定のために、歯科医学研究の未来構想・戦略について常にワーキンググループ等で検討すると同時に、資金獲得のできる研究者の育成に力を注ぐ必要がある。第2項でも述べたように、教員の役割分担を明確化し、研究の効率化を図る。これらの運用を円滑に図るために、大学院制度の改革も含めて、講座・大学院・口腔科学研究センターが東京歯科大学の発展に向けて有機的活動を行うための努力が今後必要である。

教育においては歯科医学教育開発センターの機能と権限を強化し、教務部との連携のもと、カリキュラムの検討と改善、教員へのフィードバック、high performanceな教員の養成のためのFDやSD



などを積極的に推進することが必要である。加えて、歯科医学教育開発センター専任教員の充実、または各講座からセンターへ交代で出向するなど、歯科医学教育開発センター機能の一層の充実を図るべきである。

大学間の単位互換制度については、教養系科目について一般大学と単位互換したり、国内外歯科大学・歯学部との連携のもと専門科目について単位互換したりすることが考えられるが、現在の学年制を単位制に変更するなど、実施のための準備が必要である。

これらの戦略を成功に導くために、教員評価の実質化と教員の流動性の向上が図られなければならない。

連携は大学間・大学産業界などにより大学使命の向上には大きな潮流となり始めており、わが校においては単科大学の欠点を補うための有用な方策となり得るので、連携で常に広い視野を入れて進む。

## 5. 学生教育における建学の精神、校風の伝承について

第1項でも述べたように、東京歯科大学の建学の精神は、「開拓精神」、「国際性」、「識見」、「指導性」としてまとめられる。これらの精神のもと、校是である「歯科医師である前に人間であれ」を学生教育の場で伝承するためには、まず教員が建学の精神や校風を体現することが必要である。

東京歯科大学の育成する人材像は、品性と教養を備えたうえで、(1) 患者中心の医療をエビデンスに基づいて実践できる歯科医師、(2) 研究マインドを持ち、エビデンスを創りながら発展性をもって社会・歯科界をリードする歯科医師、(3) 優秀な後進の育成に力を注ぐ歯科医師であるので、教育・研究・臨床活動の場で、教員自身がこのような人材であり、また有り続けるように努力する姿を学生に見せることが重要であろう。W.A. Wardがいうところの「本当に素晴らしい教師は学生の心に灯をともし」である。

## 6. 講座における研究のあり方について

前述したように、現在は講座単独による研究で世界的な競争には打ち勝つことはかなり困難となっている。したがって、講座の単独研究は口腔科学研究センターの設置機器で可能なものに集約する他は、一部の学外共同研究、臨床研究、症例報告等に限るのが望ましい。ただし、疫学研究および社会科学(政策的)研究の発展には当該講座が尽力し、とくに前者は口腔科学研究センターと他講座と緊密な関係を有していくことが重要である。また、臨床講座においては臨床疫学的研究の重要性を認識し、その専門家との関係を深めていかなければならない。講座における研究を適正に実施するにあたっては、教員数削減や講座研究費の配分との整合が図られなければならない。前述した教員の役割分担を踏まえながら、講座ごとの定員の一律削減が妥当なのか、研究費を傾斜配分するのか等について検討する必要がある。

## 7. 国家試験対策と臨床医育成の整合性について

第2項で述べた東京歯科大学の今後の基本的な教育体制のもとに、以下の具体策を列挙する。これらは、平成19年度および20年度教育ワークショップを経てすでに実行しつつあるものである。行動目標として、短期的行動目標(成績上位学生をさらに伸ばし、全員を国家試験に合格させる)

と中(長)期的行動目標(全員を日本の歯科界を担う人材に育て上げる)を掲げる。

- 1) 全身を基盤とした一口腔単位の教育  
研修歯科医との合同カンファレンスへの参加
- 2) 登院実習フレームの変更  
能力差に応じたプログレス期間の設定と学年制の確立
- 3) 成績優秀者への特別プログラム  
成績優秀者は各講座・研究室提供の特別プログラムを受講可能
- 4) 臨床と基礎の結びつき  
問題基盤型総合臨床基礎実習(PBPの実施)
- 5) 医局員の能力格差の是正  
若手医局員による勉強会の実施

これらは各講座・研究室の専門性の維持および大学運営との整合性に留意しながら実施していく必要がある。同時に、この際には、これらのプログラムによって国家試験予備校化しないための方略の工夫と大学としての見識を維持することが重要であり、また水道橋、市川、千葉の3診療施設における教育の役割分担の明確化が必須である。

## 8. 大学院改革について

本学大学院は、歯学及び歯学に関連する学問の領域において、理論応用を教授かつ研究し、その奥義を究め、人類福祉の増進、延いては文化の進展に寄与するとともに、有能な研究指導者を養成することを目的とし、現在までに1,700名を越える学位授与者を誕生させ、歯学研究科としての役割を果たしてきた。

歯科医学研究領域は、近年、多様化、高度化、広域化しつつある。これに伴い、時代に則した研究教育指導体制を確立するため、教育研究組織を再構築し、「歯科基礎系」「歯科臨床系」の2専攻を「歯学専攻」の1専攻に改めることとした。これにより、歯学の基礎、臨床のみならず、歯学とそれ以外の境界、複合領域における研究、教育体制を整備でき、研究の高度化を図っていくことが可能となる。

水道橋移転に伴い、研究は口腔科学研究センターに集約し、効率化を推進して世界的なレベルでの研究環境を整えていくこととなる。大学院生の研究指導の拠点についても、同センターに置き、従来の講座研究では達成出来なかった高度な研究を学際的環境下において指導していくこととする。大学院生の臨床教育は、大学院生臨床研修プログラムに基づき、新たに設置される総合診療部門において、専門知識と技能を備えた高度専門職業人としての臨床歯科医師を養成する。また、平成20年度より開設した口腔がん専門医養成コースについては、口腔がんセンター等附属施設研究室及び同センターの中で研究指導を継続して行う。

本学大学院において、養成すべき人材像は、今後、更に加速が見込まれる超高齢社会では、国民の健康の保持・増進のために口腔保健が基本となることから、有能な研究指導者を養成することに加え、研究・臨床の両面から国民医療の担い手となる優れた研究指導者及び高度専門職業人としての歯科医師すなわち「次世代口腔保健リーダー」を養成していくこととする。次世代口腔保健リーダーとして、Global Scientist(歯科臨床に成果を還元できる優れた歯科医学研究者)、Super Dentist(高度な専門知識と技能を備えた臨床歯科医師)、Oral Physician(高度かつ幅広い知識と素養を備え、研究マインドを持った、地域医療を担う歯科医師リーダー)の3つの人材養成のモデルを掲げ研鑽を続けていく。

## 9. 大学の知的資産の財務貢献について

大学の社会貢献は財務貢献につながる。教育の社会貢献として、大学主催の研修セミナーや講習会が、研究の社会貢献として産学連携や新技術・新素材の開発と提供が、臨床の社会貢献として新技術の開発や薬剤治験などが考えられる。

これらを実現するために、大学主催の研修セミナーや講習会では担当部門を設置し戦略的に展開すると同時に、本務教員だけでなく有名な臨床教員を活用することが考えられる。研究は口腔科学研究センターに集約し、コア研究部門を推進して、資金獲得のできる研究者の育成を図ると同時に国内外歯科大学・歯学部や、より広く医・薬・工学などとの共同研究や産学連携を推進すべきである。臨床研究の推進のために病院内に担当部門を設置し、口腔科学研究センターとも連携を取りながら戦略的に展開していく必要がある。

### 参考資料一覧

- ① 東京歯科大学 建学の精神の継承  
— 平成16年度から現在までの学務報告 — (平成19年3月)
- ② 大学の財務状況 (平成19年度決算概要)
- ③ 平成18年度大学資料概要
- ④ 入学志願者合計と18歳人口
- ⑤ 21世紀医学・医療懇談会第3次報告  
[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/koutou/009/toushin/970701.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/009/toushin/970701.htm)
- ⑥ 21世紀医学・医療懇談会第4次報告  
[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/koutou/009/toushin/990401.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/009/toushin/990401.htm)
- ⑦ IDE 現代の高等教育 No.478 (大学院教育の新時代)
- ⑧ 医学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議 最終報告 (平成19年3月28日)  
[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/koutou/029/toushin/07041100.pdf](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/029/toushin/07041100.pdf)
- ⑨ 東京歯科大学要覧
- ⑩ 医・歯・薬学分野における教員評価スタンダード・モデル  
(私大連医・歯・薬学部学部長等会議)
- ⑪ 私立大学入学生の学力保障 — 大学入試の課題と提言 — (私大連)
- ⑫ 私立大学における研究推進・支援体制のあり方 (私大連)
- ⑬ 国公立大学を通じた大学教育改革の支援 (文科省)  
[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/koutou/kaikaku/index.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/kaikaku/index.htm)
- ⑭ わが国の人口ピラミッド (総務省統計局)  
<http://www.stat.go.jp/data/kokusei/2005/kihon1/00/00.htm>
- ⑮ 今後の歯科保健医療と歯科医師の資質向上等に関する検討会中間報告書  
(厚労省医政局歯科保健課)  
<http://www.mhlw.go.jp/shingi/2006/12/dl/s1208-9b.pdf>
- ⑯ 大学広報関係  
第208号 学長就任のご挨拶  
第224号 三年間を振り返って  
第225号 学長就任のご挨拶  
第227号 創立120周年を迎えるにあたって

第230号 大学の水道橋移転について

⑰ 歯科医師国家試験制度改善検討部会報告書

<http://www.mhlw.go.jp/shingi/2007/12/dl/s1226-11a.pdf>

⑱ 日本の財政を考える（財務省）

[http://www.mof.go.jp/jouhou/syukei/sy014\\_2006.pdf](http://www.mof.go.jp/jouhou/syukei/sy014_2006.pdf)

⑲ 教育學術新聞 科学研究費補助金配分額一覧（H19年度、H20年度）

⑳ 第101回歯科医師国家試験結果一覧

平成20年度入試結果

## 東京歯科大学将来構想の作成経緯

今日の大学を取り巻く厳しい環境の中にあって東京歯科大学が現在を生き、将来において役割を果たすためには、時代を読み、大学の現状把握をしたうえで「将来構想」を立てなければならない。「将来構想」いわゆる「グランドデザイン」については平成16年6月「学長就任挨拶」また第一期学長任期終了時の平成19年3月作成した「東京歯科大学建学の精神の継承」において学長として言及し、運営方針を提示してきた。

その方針は大学の使命を具現化するために大学運営を「高機能化」し、しかも「低経費」で行い、併せて東京歯科大学建学の精神を基に「人材育成」をすることであり、これらを踏まえて学務運営を行ってきた。目指すのは我が大学の伝統に則した歯科大学としての「先導性」であり、言い換えれば「世界的な一流歯科大学」である。こうした理念を具体化するためには各論における構想が要求される。大学の水道橋移転は「将来構想」の主要なハードであり、新しい皮袋に合わせた新しい酒を入れることを念頭におきながら「将来構想」を策定する必要がある。

そのためにまず、「東京歯科大学の将来構想策定のための学長諮問部会」（以後諮問部会）を設置（平成20年7月8日開催 第543回講座主任教授会において承認）し、第544回講座主任教授会（臨時）（平成20年7月9日開催）において、学内外から13名にその委員（下記参照）を委嘱した。平成20年7月30日、学長名で「低経費のもとで伝統に基づいた先導性のある高機能歯科大学を目指す」ことを目標に8つの事項を設けた諮問書が諮問部会に提出され、平成20年9月30日付けでその答申を受けた。第546回講座主任教授会（平成20年10月14日開催）にて本答申を報告、それを基盤（項目8. 大学院改革については、本学大学院より提出を受けた）とし、教授各位より提出された意見を加味した上で、本学の将来構想を纏めた。その後、第550回講座主任教授会（平成21年1月13日開催）に本学の将来構想（案）を提案し、承認を受け、これを東京歯科大学の「将来構想」とした。

東京歯科大学の将来構想策定のための学長諮問部会委員

部会長 一戸 達也 教授

部会員 高野 伸夫 教授 櫻井 薫 教授 中川 寛一 教授 井上 孝 教授

矢島 安朝 教授 石原 和幸 教授 佐野 司 教授 西田 次郎 教授

古澤 成博 准教授

江里口 彰 先生（日本歯科医師会・常務理事、日本歯科医学会・常任理事）

田中 葉子 先生（前市川総合病院小児科教授）

中川 種昭 先生（慶應義塾大学医学部歯科・口腔外科学教授）

# 己丑（つちのとうし）

平成21年1月

## 金子 譲学長による年頭の挨拶

明けましておめでとうございます。平成21年新年は天候に恵まれ、皆さんもそれぞれに良いお正月を迎えられたことと思います。

さて、新年を迎えるにあたりまして、皆さんに平成21年の大学としての目標をお話しておきたいと思えます。

### 創立120周年記念事業計画の進展

平成22年に本学は創立120周年を迎えるわけですが、120周年記念事業のメインテーマは「継承と発展」であります。その意味するところは、過去から現在に続いた「東京歯科大学の歴史観」をもち、現在の「世界観」のなかで大学の建学の精神をもう一度問い直し、再確認することで教育・研究、そして医療・歯科医療に東京歯科大学の魂を注入し、将来にわたって社会貢献に繋げることであります。したがって、現在進められております創立120周年記念事業実行委員会を中心とした各部会の進行が遅滞無く行われることを、大学としての目標の一つといたします。

### 水道橋大学移転の実質的計画策定

次に水道橋移転の件ですが、移転のためには、人、物、金とすべての点で意思決定をしなければなりません。建築に関しても建築設計というハード面と教育・研究・診療のソフト面が必要となります。これらのソフトの部分を設計上に入れ込むわけですが、ここでは東京歯科大学が目標とする大学の使命を明確にしておく必要がでてきます。すでに昨年秋に答申していただいた「将来構想策定のための学長諮問」はその端緒であります。

昨年12月13日に千代田区神田駿河台二丁目の約150坪を買い入れができたことから、移転に向けての計画を大学の立場として立案していきます。このために早々に「大学移転構想組織（仮名）」の設置をいたします。これも大学の今年の目標の一つになると思えます。

さて、今後大学が少子化による志願者大学全入時代を迎えることから「大学冬の時代」に突入することは日本の大学人の一般常識でありましたが、これに加えて歯科では歯科医師過剰と収入への疑念が、社会的に強調されだしたことから歯科医師志願に対して回避傾向がここ数年間続いてきておりました。さらに昨秋からの世界的な経済不況がようやくバブル破綻から立ち直って10年もたたない日本を直撃しております。

歯科大学に有意な若者の志望者が減少することは歯科界そのものに有意な人材が枯渇していくことであります。社会的な評価が得られない集団は、外圧がそのまま首を絞めていく結果になり専門職といえども歯科界自らが歯科医療の主導は勿論のこと提言さえも意に介されなくなるでしょう。これが国民の不利益な状況となれば、現行の歯科医療制度は改変をさせられることもあると思えます。

大学は多業種の集合した大きな組織体であり、その組織体が目標に向かって動いていかなければなりません。このためには共通認識が必要不可欠のものであります。

暗いトンネルを通れば明るい場所にでるのですが、現状は既に作られた道となっているトンネルを辿っていけばいつかは抜けるということではなく、自分たちでトンネルを掘削しなければ新天地にはでられないと考えます。

そこで、われわれは大学として何をすれば、明日への展開が開けるのか論議することが必要です。

論議をすることで現状を認識し、そこから次への思考が創造されるでしょう。そして、その計画ができれば実行に移すことです。

大学移転は東京歯科大学の教育・研究そして診療を次世代に向かったの状況を作るための好機であり、われわれが、今すべきことは発展をめざして移転計画をたてることであります。このことが次世代につながり、歯科界の支えに少しでも役に立ち、さらには国民の医療・歯科医療に貢献できるであろうと考えます。

われわれが良く生き、これが次世代の人材育成につながるような現在の社会状況を俯瞰し、医療を考え、大学のもつ本来の使命を認識した上で論議を行い、結論を出し、一致団結して実行できるような機構と方策を考えていきたいと思っております。

教職員の皆さんにおかれましては、本学の目標に向かってご協力をお願いし、本年も健康に気をつけて、一年を無事に過ごしていただきたいと思います。

## 学内ニュース

### ■博士(歯学)学位記授与

○第581回 平成21年1月14日(水)授与

第528回(H16.4.7)合格

松浦 信幸(歯麻)第1601号 甲907号

第549回(H18.3.15)合格

石井 武展(矯正)第1673号 甲969号

第552回(H18.6.14)合格

国分 栄仁(臨検)第1688号 甲978号

第554回(H18.9.13)合格

松永 智(解剖)第1689号 甲979号

第558回(H19.1.17)合格

鶴岡 守人(有床義歯)第1704号 甲987号

第558回(H19.1.17)合格

田坂 彰規(有床義歯)第1707号 甲990号

第560回(H19.3.14)合格

大須賀 敬悟(保存修復)第1729号 甲1010号

第569回(H20.1.16)合格

柿本 吉堂(口外)第1751号 甲1026号

第570回(H20.2.14)合格

正岡 孝康(歯周病)第1766号 甲1041号

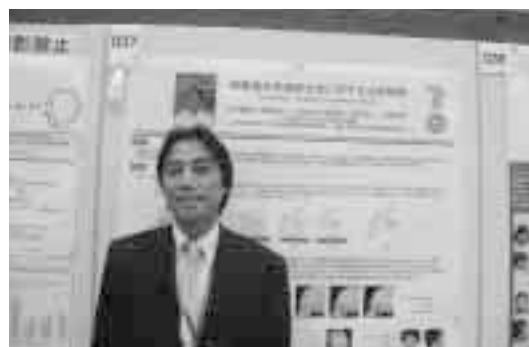
第572回(H20.3.26)合格

澁澤 真美(スポーツ歯学)第1794号 甲1068号

### ■坂本輝雄講師 3度目の学術大会優秀発表賞を受賞

平成20年9月16日(火)から18日(木)に千葉市・幕張メッセにて開催された第67回日本矯正歯科学会大会において、歯科矯正学講座の坂本輝雄講師は、「頭蓋縫合早期癒合症に対する治療戦略」と題

する発表を行い、2005年、2006年に続いて3回目の学術大会優秀発表賞を受賞した。発表内容は、Crouzon 症候群やApert 症候群などに代表される頭蓋縫合早期癒合症に関する治療についての発表である。この疾患は眼球突出や骨格性反対咬合が特徴で、それらを改善するためには中顔面部と上顎歯槽部の移動量が異なることが多い。その問題を解決するために、LeFort III + I を併用した骨延長を用いるという独創的な手法を用いた。この方法により顔貌および咬合が同時に改善できるという利点を有している。これは学術展示236演題、症例展示55演題の中から選考されたもので、症例展示では唯一の受賞であった。



受賞した坂本講師：平成20年9月18日(木)、幕張メッセ

### ■澁川義幸講師が第20回歯科基礎医学会賞を受賞

平成20年9月23日(火)から25日(木)、東京都TOC有明を中心に開催された第50回歯科基礎医学

会において、本学生理学講座澁川義幸講師が、第50回歯科基礎医学会賞を受賞した。この賞は、歯科基礎医学および関連した領域において、国内で行われた研究に関する優秀な論文に贈るものであり、将来に期待できる40歳未満の研究者から選出される。受賞論文は、”Cerebral Cortical Dysfunction in Patients with Temporomandibular Disorders in Association with Jaw Movement Observation. PAIN, 128: 180-188, 2007”で、顎関節症と脳機能の関連について、本学脳科学研究施設に設置されている脳磁場計測装置(MEG)を用いて解明したものである。脳磁場計測装置を用いた研究プロジェクト(HRC第6プロジェクト)は、平成20年度にて終了するものの、現在、多くの研究が進行している。中でも痛覚に関する国内共同研究プロジェクトでは、ヒト遺伝子網羅的解析を用いた遺伝子解析研究と高次脳機能解析研究と組み合わせ、歯科医学領域に最も関心の深い痛覚発現に関する総合的研究を行っており、今後の研究発展が期待されている。

#### ■平成20年度東京都エイズ診療従事者臨床研修開催

平成20年11月5日(水)、6日(木)および平成21年1月29日(木)、30日(金)の2回にわたり、「平成20年度東京都エイズ診療従事者臨床研修」が開催された。この研修は、水道橋病院が東京都より委託を受け、都内の医療機関でエイズ診療に従事する方々を対象に行っているものである。10回目にあたる今年度の受講者は、11月が4名、1月が5名の合計9名であった。

研修は、柿澤卓水道橋病院長をはじめ、口腔外科・総合歯科のスタッフが講義・実習を担当した。また、11月5日には根岸昌功先生(ねぎし内科診療所院長)、1月29日には今村顕史先生(東京都立駒

込病院感染症科)を講師にお迎えし、「エイズ診療の基礎知識」として、専門医の立場から貴重な講義をいただいた。お二人の講義は、本院の臨床研修歯科医も聴講させていただいた。その他の講義では、感染者への歯科治療における注意点および感染予防対策、スタンダード・プリコーションの理念および具体的な取り組み等を学習した。また、CCR(クリーンケアルーム)において、感染予防対策の実習およびHIV患者の治療見学等を行った。

#### ■「がんプロフェッショナル養成プラン」顎顔面補綴セミナーを開催

本年度から本学が参画している「がんプロフェッショナル養成プラン」の事業の一環として、平成20年11月26日(水)午後5時から市川総合病院講堂で3病院の口腔外科系の大学院生ならびに医局員を約30名集めて口腔がん手術後の顎顔面補綴についてのセミナーが開催された。今回は「がんプロフェッショナル養成プラン」が有床補綴学講座、クラウンブリッジ補綴学講座等と共同して顎顔面補綴についてインテンシブコースを構築するにあたり、顎顔面補綴の実情を広く口腔外科の立場で理解する目的で行なわれた。講師には1960年代から本邦で顎顔面補綴に携わり、現在は国際メディカルアートスクールを主宰する歯科技工士の河合康男氏をお迎えして「口腔がん治療における顎顔面補綴の現状」と題し、海外ならびに日本での顎顔面補綴の現状、顎顔面補綴と口腔外科のかかわり方、顎顔面補綴の今後の問題点などについて同プランのコーディネーターである片倉朗准教授の司会で、一時間半の講演をいただいた。河合氏のイギリスでの経験を踏まえた顎顔面補綴に関わる補綴医と歯科技工士の修練、手術場に歯科技工士が参画することで早期から補綴物を装着し患者の生活の質の向上すること、CAD/CAMを応用したエビテーゼの製作などをお話いただき、口腔外科を専門とする者にとっては興味深い内容であった。講演後は様々なタイプの補綴物を直接供覧していただき、初めて手に取る大学院生も多くこの分野の理解を深める大変良い契機となった。

平成21年度には「がんプロフェッショナル養成プラン」のなかで大学院の「口腔がん専門医養成コース」に加え、「頭頸部がん術後の顎顔面補綴」、「がん医療での口腔ケア」についてのインテンシブ



CCRでの実習風景：平成21年1月30日(金)、水道橋病院CCR

コースを関連する講座、診療科、診療支援部門と協力して構築してゆく予定である。



講演される河合氏：平成20年11月26日（水）、市川総合病院講堂

### ■市川総合病院 木曜会クリスマス会開催

市川総合病院教職員の親睦団体である木曜会主催による、年末恒例のクリスマスパーティーが、平成20年12月5日（金）に、ヒルトン東京ベイにて開催された。

今年は493名の教職員の参加を得て開催され、会食、歓談の中、恒例の出し物大会は大いに盛り上がった。それぞれのグループが勤務終了後、夜遅くまで一生懸命に練習した成果を披露し、工夫を凝らした出し物が続く中、5階西病棟チームの優勝となった。職種を問わず親睦を図りつつ、盛会のうちに終了した。



優勝した5階西病棟「タ・ヒ・チ」の皆さん：平成20年12月5日（金）、ヒルトン東京ベイ

### ■平成20年度（第39回）千葉県私学教育功労者表彰を受ける

大学事務局 会計課長 山口 国康氏

大学事務局 施設課管理係長 櫻屋敷正俊氏

市川総合病院 庶務課人事係長 小谷野雅次氏

この表彰は、千葉県内の私立学校の教職員とし

て長期間従事し、特に功労があった者として各学校から推薦された候補者の中から選ばれるものであり、今回、本学からは当該者3名を推薦した結果、表彰されることとなった。

山口氏は、事務職員として昭和50年から33年間にわたり、会計実務のベテランとして精勤している。会計全般の知識と優れた能力を有し、予算編成、執行計画及び決算等会計業務の責任者としての職責を果たすとともに、財務資料の提供等を通じて大学の運営・管理に貢献している。

櫻屋敷氏は、事務職員として昭和49年から34年間、大学、附属病院及び歯科衛生士専門学校等各施設で活躍してきた。近年は、千葉校舎における施設・設備の定期点検、修繕等維持管理、校内清掃、



表彰を受けた山口氏（上）櫻屋敷氏（中）小谷野氏（下）：平成20年12月6日（土）



緑地管理等生活環境の整備に配慮し、学生が快適なキャンパスライフを送れるように施設課管理係長として誠実に職務を果たしている。

また、小谷野氏も、昭和46年から37年間にわたり、事務職員として精励してきた。その仕事ぶりは謹厳実直であり、他の職員の範たる存在である。会計・経理関係業務の経験が長く、事務処理能力に加え、時宜を得た資料等の作成にも定評がある。また、学生課では厳しくも優しい兄のような存在として学生に慕われ、学生の厚生補導に多大な貢献をした。人事関係業務においても卓越した事務処理能力と判断力・指導力により、人事係長として部下への的確な指示・指導を行い、膨大な作業を円滑に効率よく遂行している。

以上のように、本学から推薦した3名の貢献してきた功績が高く評価され、今回の表彰となったものである。

### ■第79回歯科医学教育セミナー開催

平成20年12月15日(月)午後6時より千葉校舎第2教室において、第79回歯科医学教育セミナーが開催された。今回は、「昭和大学歯学部の新なる挑戦－医・薬学部との強い連携を目指した移転計画－」と題し、昭和大学 学生部長・歯学部 口腔病理学教室 立川哲彦 教授より説明が行われた。

まずはじめに、昭和52年に創設された昭和大学歯学部の現在にいたるまでの歩み及び歯学部の現在の定員数等についてご説明いただき、限られた人数の中で、教育、臨床、研究をどのように充実させていくかが今後の課題である旨説明があった。

次に、今回の演題である同大学の移転計画の概要について説明があった。移転に伴い、医・歯・薬学部の連携を今後、より一層高めるため、センター化を図り、3学部において共有できるものに関しては共有化していくとのことである。共有化を図る上で難しいことは、3学部の要望等の調整であり、その調整に関しては、役員及び各学部の代表者による運営委員会を設置し、運営及び予算管理等を行うとのことである。また、各学部の基礎、臨床の講座・研究室等に個別に意見聴取をしたところ、教室、研究室、診療室、カンファレンスルーム等に確保されるべきスペース、セキュリティ、各実験・研究施設の設備等に関する様々な意見及び要望等が寄せられたとのことである。今

後は、様々な意見の中から同大学にとって最善と思われる選択を試行錯誤しながら進めていきたいとのことであった。当日は100名近い参加者が集まり、質疑応答も活発に行われ大変有意義なセミナーとなった。



説明される立川教授：平成20年12月15日(月)、千葉校舎第2教室

### ■第24回カリキュラム研修ワークショップ開催

平成20年12月20日(土)、21日(日)、千葉校舎実習講義室Ⅰ、Ⅱおよびクロスウエーブ幕張において、第24回カリキュラム研修ワークショップが開催された。「カリキュラム・プランニング－臨床研修開発－」すなわち学習(研修)目標の設定、学習(研修)方法の立案及び学習(研修)評価法の策定は教育原理として重要であることから、これをワークショップの主題として、今回は市川総合病院の医科系教員24名を対象に、カリキュラム・プランニング及び問題点の解決法に関する9つのセッションからなるプログラムが実施された。3グループに分かれ、限られた時間内に討議、発表を行う凝縮された内容のワークショップに参加した受講者からは、「カリキュラム立案の考え方と指導に関する共通言語を身につけることができた」



グループ討議風景：平成20年12月20日(土)、実習講義室Ⅰ

「グループ討議等を通して問題点の共有、相互理解の向上が感じられた」等の感想が挙げられた。最後に、受講者に修了証書が授与され、2日間の日程を終了した。本ワークショップを今後も継続して実施することにより教育体制の改革と教育指導のより一層の充実を目指している。

#### ■平成20年度第6回水道橋病院教職員研修会開催

平成20年12月22日(月)午後5時30分より、平成20年度第6回水道橋病院教職員研修会が開催された。今回は、医薬品の安全使用に関する研修として、「ペリオフィール歯科用軟膏の使用上の注意」と題して、昭和薬品化工株式会社の佐々木浩氏にご講演いただき、更に、医療機器の安全管理に関する研修として、「EMC規格とその環境について」と題して、歯科放射線科小林紀雄診療放射線技師長が講演した。

医薬品の安全使用と管理については、歯周炎治療に使用されている歯科用抗生物質軟膏の容器が、ある医療機関において複数患者に使い回しされていたとの報道を受け、使用上の注意について詳細に説明があった。この医療機関では、8年間にわたり約8,500人の患者に容器の使い回しがあり、現在までこれによる感染者は確認されていないものの、対応策としては対象患者への連絡と無料の血液検査を実施するという深刻な内容となっている。この製剤の使用上の注意には「本剤の開封後の使用は1回限りとし、残った軟膏は容器とともに廃棄すること」となっておりこれに沿って適正に使用するよう話があり、重ねて医薬品安全管理委員からも医薬品全般についてそれぞれの用法用量を正確に守って使用するよう注意があった。

続いて、医療機器の安全管理については、小林技師長より医療機器の電磁妨害についての解説があった。携帯電話の普及などわれわれの周りには多くの電磁波が飛び交っているが、これらが人工呼吸器、輸液ポンプ、心臓ペースメーカーなどの医療機器に電磁障害による障害をあたえる可能性があることは以前から知られている。これら携帯電話などの発する電波が医療機器に与える影響について、EMC: Electromagnetic Compatibility (電磁的両立性) 対策が求められてきた。これは電子機器製品が電磁波により誤作動をしない・他の電子機器製品に影響を及ぼさないことを意味する。

2002年8月には、厚生労働省から「医療用具の電磁両立性に関する規格適合確認の取り扱いについて」が通達されたが、今回のEMC第2版規格の中で変更・追加された項目が示された。そして、現状として機器の電磁障害対策は向上されつつあるものの、旧型の機器も混在する状況では引き続き十分な注意が必要である、との説明があった。



講演する小林技師長：平成20年12月22日(月)、水道橋校舎血脇記念ホール

#### ■平成20年 年末学長挨拶及び仕事納めの会実施

千葉校舎「平成20年 年末学長挨拶」は、午後5時から千葉校舎講堂において開催された。会場は多くの教職員、大学院生並びに臨床研修歯科医等が出席し、平井義人法人主事の司会のもと、金子讓学長から挨拶が述べられた。今回の挨拶は、テレビ会議システムにより、市川総合病院、水道橋校舎にも同時中継され、市川総合病院は市川総合病院講堂、水道橋校舎は血脇記念ホールにて、午後5時の開始時間に合わせて各施設の教職員等が一同に集合し、巨大スクリーンに映し出された金子学長及び説明資料を見ながら拝聴した。(学長挨拶の説明資料は、本誌21ページを参照)

市川総合病院では、講堂においてテレビ会議システム配信による金子学長の挨拶に続き、安藤暢敏市川総合病院長から挨拶が行われた。続いて、安藤病院長より文部科学大臣表彰、千葉県科学教育功労者表彰が披露され、感謝状の贈呈が行われた。その後、山根源之副病院長の発声により乾杯し、和気藹々のうちに懇親会が行われた。

水道橋校舎仕事納めの会は、午後6時30分より飯田橋のホテルメトロポリタン・エドモントにて開催された。柿澤卓水道橋病院長、熱田俊之助理事長、金子学長からの挨拶に続いて、中久喜喬評議員の発声により乾杯し、終始和やかな雰囲気

懇親を深め合った。会の途中には、大串圭太大学院生(口腔健康臨床科学講座)によるサックス演奏も披露された。最後に、小林紀雄診療放射線技師長の中締めによりお開きとなった。



挨拶する金子学長：平成20年12月26日(金)、千葉校舎講堂



挨拶する安藤市川総合病院院長：平成20年12月26日(金)、市川総合病院講堂



挨拶する柿澤水道橋病院院長：平成20年12月26日(金)、ホテルメトロポリタンエドモント

### ■平成20年度「NHK歳末たすけあい募金」実施

年末恒例の「歳末たすけあい募金」は、平成20年度も千葉校舎、市川総合病院、水道橋校舎の3施設において、12月初旬から年末までの日程で実施された。

なお、集められた募金は、すべて「NHK歳末たすけあい義援金」として寄付された。募金は共同

募金会を通じて、国内の援助を必要とする子どもたちや体の不自由な方々、そして介護を必要とするお年寄り、福祉施設などにおくられる。

### ■「平成21年工作始めの会」実施

千葉校舎は、午前9時から講堂において教職員、大学院生並びに臨床研修歯科医等が出席し、菅沼弘春大学事務局庶務課長の司会のもと、金子 譲学長による年頭の挨拶が行われた。

市川総合病院では、午後4時30分から講堂において開催された。金子学長、安藤暢敏市川総合病院院長より、市川総合病院教職員に対して年頭の挨拶が行われ、市川総合病院の一年の幕開けとなった。

水道橋校舎では午後6時から血脇記念ホールにて、水道橋病院および法人事務局の教職員の出席のもと、熱田俊之助理事長、柿澤 卓水道橋病院長および金子学長より年頭のご挨拶をいただいた。

### ■市病フォーラム第13回市民公開講演会開催

市川総合病院において毎年度開催している市病フォーラム委員会主催による市民公開講演会が、平成21年1月17日(土)午後2時から、市川総合病院講堂において開催された。

『「尿に血が混じったら」～血尿は身体からのSOS～』と題し、次の各テーマに分け、それぞれに講演者を立て、実行委員長である丸茂 健泌尿器科部長の司会進行のもと行われた。

1. 「血尿は尿路の病気の重要なサイン」  
丸茂 健教授 (泌尿器科部長)
2. 「人工透析になりやすい腎臓病の早期発見」  
荒川幸喜講師 (内科)
3. 「子ども (特に学童期) の検尿異常：特に血尿について」  
川村 研先生 (聖隷佐倉市民病院 小児科部長)



開会の挨拶をする丸茂実行委員長：平成21年1月17日(土)、市川総合病院講堂

- 4.「全身的な疾患、特に腎疾患を持つ方に知って  
いただきたい歯科受診のコツ」  
山内智博講師(口腔がんセンター)
- 5.「健康は口腔の管理からはじめましょう」  
奥井沙織歯科衛生士(東京歯科大学口腔がん  
センター)
- それぞれの専門分野から、市民の皆様が日頃か  
ら疑問に思っていることや心配していることにつ

いて、丁寧にわかりやすく講演が行われた。各講演終了後に質問を受け付けたが、最後に丸茂実行委員長や各演者により、フロアからの質問にあらためて詳細に回答してまとめとした。

ビデオで中継した第二会場への入場者を含め、参加者数86名を数えた市民講演会は盛会のうちに終了した。

## 訃報 佐藤徹一郎名誉教授ご逝去



本学名誉教授佐藤徹一郎先生(旧歯科保存学第二講座)は、平成21年1月23日(金)に逝去された。享年83。佐藤先生は、昭和28年3月東京歯科大学歯学部を卒業(大学1期生)すると木村吉太郎先生のもとで、まだ当時は歯槽膿漏とよばれていた歯周病の治療と研究を開始した。昭和30年3月東京歯科大学専攻科修了(歯科保存学)、保存学教室助手、昭和32年4月歯科保存学第Ⅲ講座講師、昭和34年11月に鳥取大学米子医科大学で医学博士学位記を受領した。昭和37年9月歯科保存学第Ⅲ講座助教授を経て、昭和45年4月、歯科保存学第Ⅱ講座外教授、さらに前任の木村吉太郎教授の後を引き継ぎ昭和52年10月に歯科保存学第Ⅱ講座主任教授になられた。平成2年2月に定年退職され、東京歯科大学名誉教授の称号を授与された。

社会、学会活動としては、歯科医学の教育、研究、臨床につとめ、学会活動に関しては、長年にわたり日本歯周病学会の発展に尽力し、特に昭和61年4月～63年3月の2年間、日本歯周病学会理事長として歯周病学会の拡充ならびに充実に尽くした。公職活動も著しく昭和50年11月～52年10月厚生省歯科医師国家試験委員、同58年9月～60年9月厚生医療関係者審議会専門委員、同59年4月～63年3月日本歯科医学会評議員、昭和63年2月～平成2年1月文部省学術審議会専門委員(科学研究費分科会)を努め、多年

にわたり教育・医療行政に参画した。これらのご功績により平成14年春に勲三等瑞宝章を叙勲された。

先生の優れた業績の1つは、歯周病学における病理組織学の研究で日本においていち早く電子顕微鏡を導入し、多数の研究報告をしたことである。その中での「種々なる歯周療法後の創傷治癒過程」に関する研究では高い評価を得ている。1. 治癒後の組織付着形態の解明 2. 治癒後の神経組織の再生 3. 歯槽骨欠損部への各種骨補填剤の応用などこれらの成果は、歯周病学および歯周療法の発展に多大な貢献をもたらした。

先生には長い間、研究に、臨床にご一緒させていただきましたが、その都度、各方面で先見性をおもちであることには敬服させられるばかりでありました。その1つとして私が、ペンシルバニア大学での留学生生活を終えて帰国した際、1978年ですから今より30年前のことですが、その当時、日本の歯周病治療では、再生療法はほとんど行われていませんでした。米国より持ちかえり私が水道橋病院で行ったGTR法の患者の治癒経過をみられて、この療法は、ゆくゆくは歯周病の療法を大きく変えてゆく療法であるので一生懸命、さらに勉強しなさいと励ましてくれたことを今でも鮮明に覚えています。30年後の現在のGTR法の隆盛を考えますと今更のように先生の指導力に敬意を表すばかりであります。心より先生のご冥福をお祈り申し上げます。

(山田 了)

# ■仕事納め 金子 譲学長説明資料

**平成20年仕事納め**



学長 金子 譲

**■中書**

井上 浩 副理事長 (学長補佐) 第二学部長(歯学部長)

竹内 武春 名誉教授 (学長補佐) 校長室

菅野 隆三 名誉教授 (学長補佐)

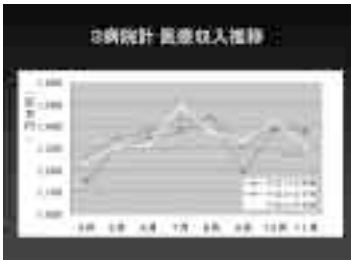
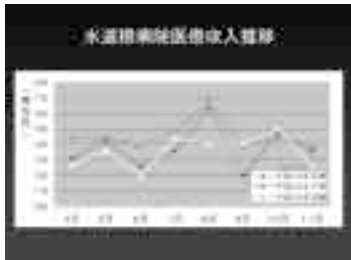
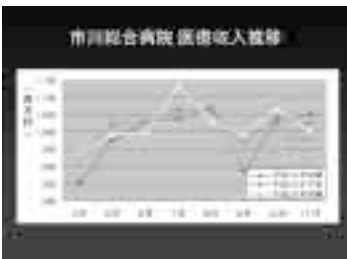
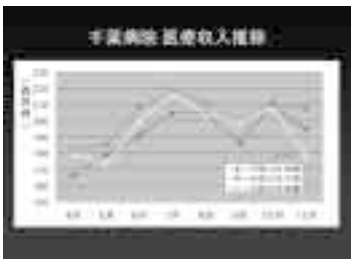
**■総務**

飯沼 一徳 学長事務官  
岡本 中規 学長秘書 (学長補佐)

■医学部  
藤田 孝 学部長 (学長補佐) 学部長室  
梶原 高志 学部長 (学長補佐) 学部長室  
高橋 孝子 学部長 (学長補佐) 学部長室

**医療収入(4月~11月)**

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
平成20年度	1,200	1,300	1,400	1,500	1,600	1,700	1,800	1,900
平成19年度	1,100	1,200	1,300	1,400	1,500	1,600	1,700	1,800
平成18年度	1,000	1,100	1,200	1,300	1,400	1,500	1,600	1,700



**■教育**

○入学試験

年度	1次試験	2次試験	合格者数
平成20年度	1,200	1,100	1,000
平成19年度	1,100	1,000	900
平成18年度	1,000	900	800

○国家試験

年度	合格者数(人)			
	歯学部	歯学部	歯学部	歯学部
平成20年度	110	100	90	80
平成19年度	100	90	80	70
平成18年度	90	80	70	60

○留学生学生体育大会

種別	1位	2位	3位	4位
男子	東京歯科大学	大阪歯科大学	京都歯科大学	神戸歯科大学
女子	東京歯科大学	大阪歯科大学	京都歯科大学	神戸歯科大学

○デレンプライド等

平成20年度「デレンプライド」コンテストで、歯学部が「最優秀賞」を受賞した。

また、歯学部が「デレンプライド」コンテストで、歯学部が「最優秀賞」を受賞した。

**■研究**

○科学研究費助成金

年度	研究費総額(万円)	
	研究費総額	研究費総額
平成20年度	1,200	1,100
平成19年度	1,100	1,000
平成18年度	1,000	900

○大学院修士・入学定数

年度	人数
平成20年度	120
平成19年度	110
平成18年度	100

○卒業生

年度	卒業生数
平成20年度	1,200
平成19年度	1,100
平成18年度	1,000

**■お祝い申し上げます**

1. 平成20年度「デレンプライド」コンテストで、歯学部が「最優秀賞」を受賞した。

2. 平成20年度「デレンプライド」コンテストで、歯学部が「最優秀賞」を受賞した。

3. 平成20年度「デレンプライド」コンテストで、歯学部が「最優秀賞」を受賞した。

## 学生会ニュース

### ■平成21年武道始め・鏡開き

平成21年1月7日(水)午後4時より、千葉校舎体育館第3体育室において、金子 譲学長、薬師寺 仁副学長、佐藤 亨学生部長、小田 豊教務部長、並びに武道系各クラブ部長や関係教職員を迎え、新春の恒例行事である「平成21年武道始め」が伊藤宗一郎君(3年、弓道部主将)の司会により挙行された。

金子学長、薬師寺副学長、および各クラブ部長を代表して、佐野柔道部部長が挨拶を述べた後、柔道部、弓道部、空手道部、少林寺拳法部、剣道部の順で演武が披露された。会場は冬の寒さを吹き飛ばすような熱気にあふれ、各部員の心・技・体の格段の向上ぶりが見て取れた。

武道始め終了後、会場を厚生棟1階食堂に移し、「平成21年鏡開き」が催された。各クラブ学生は、もち米が周囲に飛び跳ねるほど威勢よく杵を振り下ろし、まだ湯気が出ている出来立てのおもちをお雑煮や黄粉餅にして存分に楽しんだ。



日頃の練習成果を披露する柔道部員：平成21年1月7日(水)、千葉校舎体育館



鏡開きでモチつき初体験 エイッ：平成21年1月7日(水)、厚生棟第一食堂

### ■第6学年樋口はる香さん日本学生支援機構優秀学生顕彰事業優秀賞を受賞

樋口はる香さん(第6学年)が、平成20年度の日本学生支援機構主催の優秀学生顕彰事業・学術分野で優秀賞を受賞した。

日本学生支援機構では、学術、文化・芸術、スポーツ活動、社会貢献活動の各分野で優れた業績を挙げた学生に対し、これを奨励・援助し21世紀を担う前途有望な人材の育成に資することを目的として平成17年度より同事業を実施している。

樋口さんは卒業研究として生化学教室で行っている研究の成果と、歯科基礎医学会やHatton Award 日本代表として参加したIADRなど国内外での多数の学会発表の実績を評価されての受賞となった。樋口さんは、平成20年12月13日(土)にアルカディア市ヶ谷にて行われた表彰式に参加し、表彰状と奨励金を授与され、祝賀会では他の受賞者や関係者と研究の内容や受賞の喜びを語り合った。

#### 樋口はる香さん

「研究を通して得たたくさんの貴重な経験と出会いに加えて、今回の受賞も大変嬉しく、大きな自信になりました。これまでたくさんの方に支えていただいたことへの感謝を忘れずに、また今後はこの賞の名に恥じぬよう自覚を持ち、これまでの経験を活かして後輩や社会へ還元していけたら、と思っています。」



「優秀賞」で表彰される樋口さん(右)：平成20年12月13日(土)アルカディア市ヶ谷

## トピックス

### ■金子 譲学長がMarquis Who's Who in the Worldに掲載される

金子 譲学長がMarquis Who's Who in the World Twenty Six Edition 2009に掲載された。Marquis Who's Who は100年以上刊行され続けている米国の年鑑版紳士録である。Who's Whoシリーズの中でもWho's Who in the World は選択基準が高く、国家元首および親族、政府首脳、政界実力者、財界実力者、大企業の経営者、ノーベル賞受賞者などの著名な学識経験者、世界的に活躍する芸術家や芸能人、オリンピックや世界大会のメダリストおよび世界記録保持者、世界的ベストセラー作家のように、国際的に著名な人物が選出される。金子学長の歯科麻酔学での国際的な学術活動が評価さ

れたものと思われる。本書は金子学長より図書館に寄贈された。



Marquis Who's Who in the World Twenty Six Edition 2009掲載を証明するブランク

## 2008年の回想 & 2009年の抱負

### 足立 悦子 (千葉病院 医療安全管理室/医療連携室)

東京歯科大学千葉病院に就職して、昨年12月で丸9年が経ち、10年目に入りました。ここに就職した9年前というところ…”え～っと”下の子がまだ、生後7ヶ月、上の子が4歳。そんな子供たちも、親の心配をよそに逞しく成長しています。昨年4月、上の子は中学生になり、制服を着るとそれなりに中学生らしく見えるものだと感じたのと同時に、子供の成長に嬉しいような淋しいようなものを感じました。

私といえば昨年の4月に、医療安全管理室及び医療連携室に異動となりました。私のようなものが場違いだと思いつつ会議に出席。名前を覚えることが苦手な私はまず、先生方の顔と名前を覚えなくてはとメモを取り、また聞きなれない言葉は、後でこっそり調べたり…。なんとか9ヶ月が過ぎました。2009年の抱負、大それたことはありませんが微力ながらもメンバーの一人として、医療安全、医療連携に目を向け携わっていかれたらと思います。

### 家田友香里 (歯科衛生士専門学校 学生)

衛生士校に入学してから2回目の新年を迎えた。昨年の今頃は「登院」ということはまったく考えておらず、ただ毎日基礎を中心とした講義についていくので精一杯だった。そんな私が昨年の10月に登院し約3ヶ月が過ぎ、違和感のあった真新しいユニフォームや慌ただしい生活にもようやく慣れてきた。

昨年までに小児歯科や口腔外科・口腔外科病棟などで実習させていただき、幅広い年齢の方と接し、様々な症状・処置を間近で見ることができた。自分なりに勉強し疑問点等を解決して確実に納得して学べた。

新年を迎えた今、登院した頃の緊張感を思い出し、臨床の場でしか学べない事をしっかりと吸収していきたいと思う。一步一步確実に、知識・技術共にレベルアップしていけるよう実習に励み、充実した日々を過ごしたい。そして、卒業研究や来年の国家試験への準備もしつつ、59期生の仲間と楽しい学生生活を送りたい。

今年は成人式を迎え大人の一員となる。自分の行動に責任を持ち、大人としての自覚ある行動を心がけていきたい。

**石郷岡 均** (市川総合病院 薬局長)

本年は薬学教育六年制がスタートしてから4年目になることから、今春卒業の薬大生が現行4年制薬学教育での最後の卒業生であり、来年、再来年の2年間は卒業生が出ない空白の2年間となる。

当院薬局では本年1月現在2名の非常勤薬剤師が欠員(内1名は昨年4月から)で、八方手を尽くしているが如何せん非常勤で探すのは大変であるのに、状況は今後益々厳しくなってくる。

そんな中、当院が昨年地域がん診療連携拠点病院に指定されたことに伴い、「化学療法に携わる専門的な知識及び技能を有する常勤の薬剤師を1人以上配置すること」となっていることから、がん専門薬剤師を養成すべく、日本病院薬剤師会が研修施設として認定した病院において三ヶ月間の実務研修に、昨年の10月から1名、新年から1名が行かせて頂いている。そして可能であればその後も1名をと考えている。

又、前述の指定要件にある「緩和ケアチームの整備」で薬剤師もメンバーに入っており、同様に整備されると思われる「レジメンの審査委員会」でも委員に入れさせて頂くつもりなので、厳しい職場状況ではあるが、これらに必要な知識の習得に努めさせなければと考えている。

**石塚 洋一** (歯周病学講座 大学院生)

2008年は、なんとも要領の悪い一年だった。研究の要領も悪い、診療の要領も悪い、妻の小言を受け流す要領も悪い。そんな要領の悪さを改善すべくイシヅカルパスなるものを模索する一年だった気がする。完成はいつになることやら…。という書きかけの恥ずかしい原稿を講座のプリンターで印刷したまま忘れてきてしまったことに翌朝気付くも時既に遅し。案の定、「ねえねえイシヅカルパスって何？」講座に行くと先輩に指摘される。「あの、”クリニカルパス”をもじって”イシヅカルパス”ということなのですが…。」ちょっと分かりにくかっただろうか。そんな最近の僕の癒しは、夜中に帰るとカブトムシみたいになって寝ている1歳の息子です。こいつのかわいい寝顔が見えると、がんばらなくちゃ!と思う。2009年は研究に集中したい。帰りが遅くなってしまっても許してくれる家族に感謝します。

**大貫 智宏** (口腔健康臨床科学講座 助教)

年末に実家の新潟に帰省したのですが、商店街の店が帰るたびに減っていくのを寂しく感じました。平成の大合併により、自分の生まれ育った町名がなくなっていました。郊外に目をむけると大型ショッピングモールが増えたりもしています。僕が13年前に見た街並みは薄れかけていました。

2008年を振り返ると、7月から助教になりました。それまでとは違う立場になり、自分の足りない部分を多く気づかされた1年でもありました。2009年は、後輩達が水道橋病院で過ごせて良かったと思えるように指導していきたいと感じています。と、短いですが1年の抱負としたいと思います。今年も皆さんよろしくお願ひします。

**加藤 靖明** (法人事務局庶務課 課長)

自身の性格：テレビの或る証券会社のCMで「現状維持の法則」が流れていた。選択肢が多いと人は無難なものを選ぶようである。余り変化を好まない保守的な自分もそうであり、「なるほど」と思った。心機一転：昨年を振り返れば、世相を表す漢字一文字は、「変」であった。世界的経済恐慌、日本の政治不信、食品問題、環境問題etc。生活の様々な場面で影響を及ぼす事が起きた、まさに「変」な一年であった。一方で第44代アメリカ大統領の選挙演説中の「change」という言葉は、心に響くものであった。不透明な時代には変革が必要だ。意識改革。強い想い：昨年6月にご逝去された井上 裕前理事長の座右の銘、「得意淡然 失意泰然」が思いだされた。得意が少なく失意(逆風)の多い今の時代こそ、悠然と構え、変化にも動ぜず、冷静に最善の判断をし、変革に取り組んでいこう。寂しい現実：九連休という長い休みを殆ど家で過ごし、一步も外に出ずにゴロゴロと生活をした結果、体重は留まることを知らずに増えていき、動きの鈍くなった自分が居た。変わらなくては。

**木村 裕** (臨床検査学研究室 大学院生)

昨年末に井上教授にお話頂いた中に「利他」という言葉がありました。正確に解釈できているかどうかはわかりませんが、自分に利のある、自己中心的に行動せずに他人に利があるように考える、行動を心がけるといような意味と私は感じ、素晴らしい言葉だと思いました。



昨年は大学院1年生でしたので心構えから始まり生活態度、一般教養などを学ぶ日々でしたが、二年目は環境にも慣れ、いくらかの余裕ができるかと思っておりますので、この「利他」という言葉を大事にして勉強していきたいと思っております。

#### 木村 基善 (学生 第2学年)

2年生になってからは授業や試験に追われる日々で、気がつけば本当にあっという間の1年間だったと思います。1年生の時とは異なり、授業も実習も新しいことばかりで最初はついていくのも大変でしたが、歯科学生としての、実感をしたのを憶えています。また、忙しいながらも東歯祭の運営にも携わったり、部活動や学外の活動に積極的に参加したりと、自分なりに充実した1年を送ることが出来たのではないかと思います。

2月には初めての総合学力試験も控えており、新年早々忙しくなりそうですが、そんな中でも自分を見失うことなく、今年もたくさんのことを吸収して昨年以上に充実した1年を送っていききたいと思っております。

#### 小坂 竜也 (口腔健康臨床科学講座 助教)

千葉病院矯正歯科より水道橋病院へ移動になり、早1年半が過ぎようとしています。当初は戸惑いも多く、周りの先生、スタッフの皆様にご迷惑をかける事も多々ありましたが、最近は患者の流れや診療体系もほぼ把握し水道橋病院の特徴である各科間の敷居の低い包括的な歯科治療にも積極的に参加できるようになりました。また私事で申し訳ないのですが昨年長女が生まれ、初めての子育てを悪戦苦闘しながらも毎日楽しんでいます。そういった意味で2008年は公私ともに非常に充実した一年でした。本年は水道橋病院の一員として、より質の高い咬合を矯正治療を通して患者様に提供できるよう、また良き父親を目指し努力していきたいと考えております。

#### 菅原 圭亮 (口腔外科学講座 レジデント)

早いもので歯科医師になって5年ですが、2008年は私にとって1年間通して大学病院に勤務した初めての年でした。2007年の夏に研究所から戻り大学院を卒業し、やっと社会人になりました。基礎研究と臨床のギャップが大きく思うようにいか

ないこともありました。2009年は、①口腔外科医として臨床・研究ともに高みを目指し日々全力で努力すること。②30代に突入する前に、横に成長を続けている状況を打破し、学生時代の体型に戻すこと。以上が抱負です。②に関してはかなり厳しいですが最善を尽くしたいと思います(いかにせんー10kg以上なもので…)。来年この文章を読んだ時に後悔しないようにしたいです。

#### 杉山 節子 (歯科衛生士専門学校 講師)

明けましておめでとうございます。今年の干支は丑年です。牛は、マイペースでのらくらとのんびり過ごしているようで、その実、労働力にもなるし栄養源にもなり観賞用にもなるありがたい生き物だと思います。神様にしている宗教もありますね。牛のように、じたばたしないでマイペースで、さらに人のお役に立つ1年であればよいと思います。

さて、今年の第1目標は、ズバリ3月1日に実施される歯科衛生士国家試験で本校から受験する3年生45名全員が無事受験しさらに合格することです。また、過剰な期待とお別れしてきちんと就職を決め、将来もずっと仕事をしていく基盤を作ることが大切です。現在、臨床・臨地実習中の2年生は、4月から始まるⅡ期実習に備えて、知識と一般常識をしっかりと身につけることが必要です。Ⅱ期は市川総合病院での病棟とICU実習があり、臨床で業務していく歯科衛生士に将来必要な内容を学ぶ場だからです。今まで以上にしっかりと勉強しなければ市川総合病院での新たな勉強にはついていけないことを自覚し自ら勉強することが大切です。同じことが1年生にもいえます。

毎年、卒業生を出し新入生を受け入れることを繰り返して、本校は今年創立60周年を迎えます。毎年の繰り返しですが、いわゆる惰性にならないよう私たち教職員一同がまず気持ち引き締め、常に過去を見直し、次にチャレンジしていくことが大切なことと思っています。今年も宜しく願い致します。

#### 鈴鹿 里沙 (学生 第3学年)

2008年「今年の漢字」は「変」だそうだ。変化、変動、変革、異変など、「変」には様々な表情がある。「変」をどう受け止めるかは人によって様々。

現在の世界状況からすれば負のイメージが大きいかもしれないが、私にとって「変」は「チャンス」であり、2008年はまさに多くのチャンスに恵まれた年であった。

東京歯科大学に、学士編入学を果たしてから2年目にあたる2008年。「1年生」だった第2学年を終え、私は「更に学校生活を充実させたい」との思いを胸に、2008年度東歯祭実行委員会で副委員長を務めさせていただいた。「変化を恐れず新しいことにチャレンジしよう」と目標を掲げて歩みだした学園祭。変化の中で戸惑いや不安に飲み込まれそうになりながらも、サポートしてくださる先生方や学生課の方々、そして信頼のおける委員長をはじめとした素晴らしい人達に支えられ、学園祭は大成功。この経験は私の価値観に大きな変化と成長のチャンスとを与えてくれた。残された課題や反省点も多くあるが、すべてはかけがえのない財産として、来年の「変」につながっていくに違いない。

大小の違いはあれど、日々の生活は目まぐるしい「変」の連続だ。そんな中で大切なのは『「変」とどう向き合うか』ではないだろうか。「変」の善し悪しを決めるのは他の誰でもない、自分である。「変」から生まれる「チャンス」に恵まれた2008年。そんなチャンスを大いに生かし、2009年には心機一転、また多くの「変」にチャレンジしていきたい。

#### 高木 直人 (大学事務局庶務課 庶務係長)

年末、千葉県内の飲食店で食事をしたところ、翌日の早朝から熱発・嘔吐・下痢で自分が今まで経験したことのない症状で苦しんだ。食中毒・ノロウイルス感染を疑い不安な気持ちと家族への二次感染を心配しながらマスクをして1日中寝てガマンしていた。翌日の新聞で私が食事した店が集団ノロウイルス感染で3日間の営業停止処分との記事が出た。予想どおりだった。いかに自分が健康でもウイルス感染には勝てない。感染の恐ろしさを実感した。

近頃、世界中で地球温暖化や新型インフルエンザ感染等の問題がマスコミに取り上げられない日は無いといっているほどです。2009年の抱負としては、自分の所属している大学庶務課が健康管理委員会の事務局をしていますので、健康管理センター主任の指示を受けて感染予防の周知徹底をはじめ、微力

ですが教職員等の皆様の健康管理に関して一層努力して行きたいと思っています。感染予防対策には是非ご協力をお願いいたします。

#### 高橋 恭子 (大学事務局会計課 事務員)

爽やかな日本晴れのお正月から始まった2009年、芳しくないニュースばかりが報道されています。そんな時にこそ、小さな楽しみが欲しいものです。

さて、その楽しみとして我が家で静かなブームを呼んでいるのは、某社の「堅あげポテト」です。やっぱり『食』です。でも焼肉よりはリーズナブル。ベーシックなポテトチップの比較的軽い食感を『パリパリ』とすれば、この堅あげポテト君はしっかり歯ごたえのある『ガジョリン』なのです。

堅あげ君と出会ったのは、少し涼しくなった秋の初めでした。主人のお酒のつまみにと、食卓に載せ何気なく口に入れたところ、「えええっ、堅くて香ばしくて、ポテトチップのくせにこんなに美味しいっ」。「のび太のくせに」のようで失礼な言い回しですが、その意外な美味しさに驚きました。新聞広げて調子よく口に運んでいると、あら、もう完食。隣にはビール片手に不満げな表情を浮かべている人物が？気のせいでしょう。数日後、再び食卓に堅あげ君がいます！何度か口にして主人も気に入り、帰宅途中で手に入れた模様。そして、この日は『ガジョリン』音に反応して三歳女兒も参戦。「もっともっとちょうだ〜い〜。」殆どをムスメが完食。同じ遺伝子を感じますね。

かくして、「堅あげポテト」愛称・堅あげ君は我が家で不動の地位を手に入れたのです。そして最近では、堅あげ君は三歳児就寝後開封ルールとなりました。なぜなら暴君幼児の手に渡ったが最後、テーブルの下に籠城し厳戒態勢が敷かれ配給制になってしまうからです。(号泣)

#### 高山 沙織 (歯周病学講座 大学院生)

大学院生活最後の年となった2008年は、海外学会発表、積み重ねた研究データからの論文執筆、論文審査にいたるまで、初めて経験することばかりで、怒涛のように過ぎていった1年間でした。特に、7月にトロントで行われたIADRで海外の貴重な研究発表にも触れることができ、大変有意義な時間を過ごすことができたことは、大学院4年間においても最も印象深いこととなりました。12月

に学位論文審査を終え、2008年をととも充実した年にすることができたのも、多くの先生方、友人達のお力添えの賜物であり、心より感謝いたします。

今年はこれまでの経験を生かして、さらに実り多い1年にできるよう努力してゆきたいと思っております。まだまだ未熟ではありますが、これからもよろしく願い致します。

#### 武田 慶子 (歯科麻酔学講座 臨床専門専修科生)

昨年頃は、進路決定に模索しながら研修医として新年を迎えましたが、行き着いたところは私の中の目指す原点に戻り、歯科麻酔科へ。手術症例にて全身麻酔を担当したり、登院生と関わるようにもなり、人とのコミュニケーションが印象的な1年になりました。入院患者への問診、登院生への学生実習の指導、新しい環境での生活。要点を要領良く伝え、興味を持たせ、理解してもらうには、自分自身での確実な理解、相手の理解に合わせた解説…と、一般診療でのインフォームドコンセントに通じるものがあると感じています。

新年は、何事にも自信をもって挑めるよう、日々鍛錬していきたいと思えます。

#### 田代ひろこ (水道橋病院事務部総務課 事務員)

江ノ島に児玉神社という神社があります。祀られているのは日露戦争の立役者、児玉源太郎。私が学生時代に研究していた作家の父親によって建立されたものです。

私は就職前に三度この神社を訪れています。一度目は修士論文を提出した直後、時機を逸したフィールドワークを兼ねた物見遊山でした。二度目はその翌月、一度目の願掛けが叶ったお礼と、これから始まる就職活動についての願掛けをしました。

東京歯科大学から内定の連絡をもらったのは、その約一ヵ月後のことでした。そして去年の一月、私は三度児玉神社に足を向け、前回のお礼をしつつ就職先がよい所であるようにと拍手を打ったのでした。

それから約一年。未だ四度目のお参りは済んでいませんが、私の願いは完璧に聞き届けられていると言えます。

昨年春に入職し少しずつ仕事に慣れてはきましたが、まだまだ至らないことばかりです。それでもとても充実した毎日を送ることができている

のは、ひとえに私を支えて下さる皆様のおかげです。このような恵まれた環境の中で働けることに感謝しない日はありません。

今年は、そうした皆様からの恩恵を享受するばかりではなく、少しずつでも恩返しができるようになるということが目標です。もう神頼みする余地はありません。私自身が日々碎身し一つ一つの仕事を着実にこなして行くしかないと思っています。改めて気を引き締めていきますので、これからもどうぞよろしく願いいたします。

#### 平田創一郎 (社会歯科学研究室 講師)

東京歯科大学に赴任して早くも3年が経ちました。学問としての社会歯科学、医療倫理、コミュニケーション学や、現第4学年の副主任など、初めてのことの連続でしたが、「初めてづくし」は前職で経験済みでしたので、特に平成20年度は楽しみながら学ぶことができました。

平成21年度の抱負として、研究については、専門は何かと尋ねられたときに自信を持って答えられるようになることを挙げます。社会歯科学の一言では伝わらず、未だこの問いに対する簡明な答えを持ち合わせていないことが、大きな悩みの1つです。そろそろテーマを絞らなければならないと感じています。教育については、臨床研修施設から積極的に求められる卒業生、すなわち「使えない研修歯科医」から「役に立つ研修歯科医」への転換が図れるよう、特に技能・態度領域の教育を充実していきたいと考えています。もちろん、患者から望まれる歯科医師の養成は言うまでもありません。

#### 平林 剛 (水道橋病院歯科技工室 副主任歯科技工士)

年末から年始にかけて家族で韓国に行ってきました。途中、必要なものができ、地元のスーパーのような所へ行きました。私が店員に、日本語・かたことの英語・ジェスチャーで話しかけると、予想どおりちんぷんかんぷんという顔をされました。ところが、その店員さんは、すぐになっこり笑って私に着いてきてと手振りで示し案内をはじめました。結局私の目的のものにたどり着くまでに、2フロアにわたり3箇所の棚に行くことになったのですが、私がノーというたびに必ず微笑んでから次の所へつれていってくれました。笑顔を見るた

び親身になって考えてくれているんだという気持ちになり、とても安心して目的のものを探すことが出来ました。また、見つかったときにはとても温かい気持ちになり心から、私が唯一覚えていた韓国語が言えました。

私はこの温かい気持ちと言葉を絶対に忘れずに、この1年を過ごしたいと思います。

「カムサハムニダ」

#### 広野 悟 (市川総合病院 主任臨床工学技士)

2008年を振り返るとともに、臨床工学技士として市川病院に勤務して17年の歳月が経ち、臨床工学技士の業務も院内で認知されてきた。新病院が開設した当時は、よく臨床検査技師と間違えられたことなど、今では懐かしい思い出である。

10年以上を3人のスタッフで業務を行っていたが、平成17年の北病棟開設とともに2人が増員され、平均年齢37.5歳、男ばかりの5人体制の部署となった。

平成19年4月1日施行の改正医療法において医療機器の安全管理体制の確立が医療機関の責務となり、特に補助循環装置、人工呼吸器、血液浄化装置、除細動装置、閉鎖式保育器などの医療機器の保守点検管理が明確に示された。また平成20年4月の診療報酬改正において、これらの生命維持装置を臨床工学技士が操作した場合に医療機器安全管理料が創設され、臨床工学技士配置への理解が急速に深まった。

当院においても、昨年4月には開設以来初めての新卒者と女性の技士を採用していただき、2008年は、臨床工学部署にとって新しい風が吹いたChangeの年になった。

医療環境も大きく変容している中、今年もスタッフとともにYes We Canの精神で一年間頑張りたいと思います。

#### 冬野 英雄 (市川総合病院 会計課長)

言葉ひとつで気分が変わる。言葉というものは、受け手の心理を変化させると同時に、送り手にも大きな影響を与えます。たとえば「自信がない」とつぶやいたとたん、実際に自身がなくなってしまう。「元気ですか」と声をかけ続ければ、「ええ、元気です」と応じるようになり、実際に元気になっていきます。

言葉はひとたび口にすると、自分の耳に響くことによって、暗示力が急に強くなるようです。「病は気から」と言いますが、人間の身体も言葉によって影響を受けることは間違いのないはず。昨年より健康管理のためダイエットに取り組んで5カ月、7キロ減量できました。目標は10キロですがなんとか達成できそうな気がしています。言葉の持つ暗示力をうまく活用すれば、自分をよい方向へ変えていくことができるということです。

言葉はその人自身を表し、人は言葉によってつくられていくのでしょう。「心が強くなければ、体は決して強くならない」。何事も熱意と強い意志をもって一心不乱に続ける覚悟が必要だと思えます。

#### 松元 吉治 (千葉病院医事課 事務員)

昨年とはとにかく色々なことがありました。年が明けたらあつという間に年度末になり棚卸し作業と会計監査の準備に追われての中で異動の話。引き継ぎ書と呼べるほどのものを作成する余裕もなく自分の引き継ぎ事項だけで頭がいっぱいになりました。

異動後は覚えることが山積で空気感も違う場所での日々は更なる自分への未来の糧として与えられたチャンス、とにかく吸収しなければと思いましたが自分に足りないものが見えず自己嫌悪の繰り返しとなりました。

慌ただしさの目立つ窓口仕事中心の部署ですが、自分が忙しい時こそ物腰の柔らかい「優しい」接し方が出来る人でありたいと思いました。プライベートでも言葉の強さ、使い方、伝わり方で口論になることが多々あるのですが、冷静に対処できればつまらない時間と感情を生み出さずに済んだのではと反省します。人は感情で生きているからこそ小さな優しさに感動したり癒されたりするのだと改めて感じるようになり医療行為のできない事務職員はせめて「優しい」接し方で癒せたらと思いました。

#### 黛 崇仁 (大学事務局図書課 事務員)

図書館では飲料の持ち込みについて、ペットボトルや水筒等に限り許可しています。これは、海外や国内の大学図書館での取り組みを調査し検討した結果ですが、事例報告として論文にまとめたところ、先日、国会図書館の雑誌の記事で引用し

ていただきました。論文が引用されるのははじめてだったので何より嬉しかったのですが、論文が引用されるということについて、実際に引用されてみてはじめて分かったように思います。

図書館では学内の研究成果をインターネットで広く公開する「機関リポジトリ」という事業を行っています。無料で公開された論文の被引用率は、そうでない論文の5.6倍となったとの調査報告もあります。引用された時の気持ちを大切に、今年も機関リポジトリ事業への注力はもちろんのこと、教育・研究・診療活動をさまざまな方法でバックアップしていきたいと思えます。

**村上 聡** (歯科医学教育開発センター 助教)

100年に一度、ミゾウユウ (未曾有) の時代を生きている！なんていうけど、毎日意外と淡々としているものだ。そんな私でも、過去をフシユウ (踏襲) するだけでなくハンザツ (頻繁) な議論の先を見据えたビジョンの必要性を痛感しつつ、ヨウサイ (詳細) のユウム (有無) もお構いなしに、次々と判断し、迅速な対応が求められることが多くなったことは実感している。「Change」にもビジョンがなければ、「Yes We Can!」とはいかないだろう。今こそ強いメッセージが求められている。

## 教職員への移転関係報告 (2)

平成21年1月22日

教職員各位

東京歯科大学広報233号 (平成20年11月30日発行) 掲載の教職員への移転関係報告にてお知らせしました水道橋校地 (予定) は下記の通りです。



## 図書館から

### ■本学教員著書リスト

(本学の教員名が標題紙に記載されているものに限定)  
下野正基 訳「ドイツの歯科医療システム」口腔保健協会、2009 (Burkhard Tiemann [ほか] 著)

○本学教員の著書については、特に収集に努めております。著書発刊のときには、できましたらご寄贈のほどよろしくお願いたします。

### ■グループ学習室設置

平成21年1月より図書館視聴覚室内にグループで学習、研究が行えるグループ学習室が設置された。利用定員は12名で、スクリーンおよびプロジェクターが用意されており、パソコンを使用した学習、研究も可能となっている。利用の際はグループの代表者が図書館カウンターで利用手続きをとり、最大3時間まで使用することができる。



プロジェクターにも対応したグループ学習室：図書館2階、視聴覚室内

### ■PubMed講習会開催

平成20年12月16日(火)午後6時から、千葉校舎第1教室において、文献検索データベース「PubMed」の講習会が、「図解PubMedの使い方」の著者である阿部信一氏(東京慈恵会医科大学学術情報センター)を講師に迎え、開催された。本講習会は、学内利用者からの開催要望が大変多かったもので、開催にあたり事前申し込みが約60名にも上り、当日は、定員を大幅に上回る約80名の参加があった。また、市川総合病院からも10名近い参加があっただけでなく、同窓の先生や他大学からも参加があるなど、盛況のうちに終了した。今後も臨床、研究に役立つ講習会を企画いたしますので、是非ご参加ください。



PCを使って実習形式で行われた講習会風景：平成20年12月16日(火)、千葉校舎第1教室

### ■学生のための教養系推薦図書

図書館では、学生・教職員等の利用者の要望に応えられるよう、資料の収集・保存に努めており、この度、学生の学習・教育・人間形成に役立つような教養系図書について、教養系の先生方から図書を推薦していただいた。推薦図書は、各教科の専門分野での学生向け図書に止まらず、教養系図書全般にわたり選択していただいた。その結果、

図書館で所蔵していない図書34冊を購入した。なお、推薦図書リストは図書館ホームページで閲覧できる。

## 〈大学史料室から〉

### ■川口正雄先生より資料の寄贈

平成20年12月、甲府市在住の博学同窓、川口正雄先生(昭和12年卒：当年94歳)から、血脇守之助先生揮毫の「武運長久」が染め抜かれた綿布(4枚連染の反物：長さ約3m50cm,幅約35cm)が寄贈された。綿布は、血脇先生の書の下に「全国東京歯科医学士会」と記されており、先の大戦下で出兵する本学卒業の東京歯科医学士会会員に贈呈されたものと思われる。



血脇先生揮毫の「武運長久」が染め抜かれた綿布

### ■血脇守之助先生揮毫の「武運長久」が染め抜かれた綿布の調査

川口正雄先生ご寄贈の綿布について由来調査のため、平成21年1月14日(水)、図書館より2名が甲府市の川口先生宅を訪問して、お話を伺った。実施に際しては、同窓の金山公彦先生(昭和37年卒：葦崎市在住)より種々手配等にご尽力いただいた。また、川口先生と親しい同窓の雨宮彦一先生(昭和16年卒)と天野静子先生(雨宮先生ご令嬢：昭和



前列左より 雨宮先生、川口先生、金山先生、後列左より天野先生、川口叔宏先生(川口先生ご子息：川口歯科医院長)：平成21年1月14日(水)

46年卒)にも同席していただくことができた。

川口先生からは、学生時代について、当時は、配属将校による軍事教練がカリキュラムに組み込まれており、富士裾野演習場等に遠征し泊まり込みで訓練を受けたこと、クラブ活動では、配属将校が乗馬部の指導を受け持っていたこと等、当時の写真を見ながら説明していただいた。(ちなみに、川口先生は、関東医歯薬馬術大会で優勝したことがある)。卒業後は、召集により入隊し、陸軍病院に配属されたが、残念ながら、この綿布を何時どのような経緯で入手されたかは、思い出せないとのことであった。なお、4学年後輩の雨宮先生の学年では、このような綿布が配布されたことはなかったとのことである。雨宮先生の学生時代は、大戦の最中であり、同級生の中には、志願兵として戦地に赴き戦死された方がいらっしゃるとのことであった。戦時下に青春を過ごされた先生方のお話からは、平和の尊さが強く感じられた。

なお、「東京歯科医学士会会報」第6号(昭和12年12月発行)に、昭和12年10月14日に鎌倉八幡宮に於いて「東歯学会国威宣揚祈願祭」が行われた旨の記載があり、その記事の最後に、「因ミニ出席召喚員家族十三名ハ東京府支部ニ属シ全国百

十数名ノ氏名ハ別ニ列記シテ神前ニ奉納ス、尚当日欠席セル支部応召員家族ニハ武運長久守札ヲ本会ヨリ自宅ニ持参ス、…」と記されている。しかしながら、寄贈された綿布が武運長久守札なのか、それとも別のものなのか確証が得られていない。については、この「武運長久」の綿布の由来についてご存知の方がいらっしゃいましたら、図書館までご連絡いただければ幸いです。

(川口正雄先生におかれましては平成21年2月19日(木)ご逝去されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。)

### ■史料室収蔵品紹介：写真

\*史料室収蔵写真は、図書館ホームページ上でも紹介されています。併せてご覧ください。



東京歯科医学専門学校前の白山通りを走る東京市電(明治44年頃)

## 歯科衛生士専門学校ニュース

### ■「オランダ/アムステルダムの歯科衛生士校との国際交流」

東京歯科大学歯科衛生士専門学校では、数年前より教員および学生レベルでの海外との交流を検討してきている。今回、オランダ・アムステルダムにある歯科衛生士養成大学の“INHOLLAND University of Applied Sciences, Dental Hygiene Education”より、歯科衛生士の資格を持つ男性教員に引率され、事務職員と6名の学生の総勢8名が、10月31日から3日間にわたって来校し、本学学生と、文化、歯科衛生士業務、教育内容や学生生活など広い範囲で、互いに関わり合った。

来校初日は、3年生たちが中心となって、千葉校舎の中や千葉病院内を案内し、飛び出す質問にどぎまぎしながらも、準備した英語の原稿を片手に説明してまわった。続いて千葉病院での臨床実習についてのプレゼンテーションと歓迎のティー

パーティーが、歯科衛生士専門学校の教室でなごやかに催された。

次の日からは、東歯祭がはじまった。講座展示やさまざまなイベント、色とりどりの屋台とそこで出される食べ物に目を見張りながら、楽しい時間を過ごした。3年生による口腔衛生指導の会場では、指導方法を熱心に見つめると共に、方法の違いをディスカッションしたり、ブラッシング指導に参加した子供たちに、懸命に英語で説明する姿がみられた。11月1日の午後と2日の午前の2回にわたって、今回の目玉でもあるオランダの歯科衛生事情、特に、歯科衛生士業務や大学での学習内容について、自己紹介と共に学生たちひとりひとりから発表があった。オランダでは歯科衛生士を目指す学生は、4年制大学を卒業することで歯科衛生士の資格が得られることや、歯科衛生士が個人でオフィスを持つことが可能で初期齲蝕の治

療まで行うことができるなど、日本との違いに会場からは何度も驚きの声が上がった。夕方に開かれた学生主催のパーティーでは、まだ出会って2日目だというのに、あちらこちらで大きな笑い声が響き、散会後には学生同士でカラオケに出掛けるなど、お互いの理解が深まった3日間であった。歯科衛生士専門学校では、今後とも継続的な教員および学生の国際交流を検討していきたいと考えている。



東歯祭での学生同士の交流：平成20年11月1日（土）、千葉校舎教養棟

### ■卒業研究論文発表会

東京歯科大学歯科衛生士専門学校では、3年制教育の中で、卒業研究論文の作成をカリキュラムにとりいれている。卒業研究では、学生たち、ひとり一人が問題を発見し、疑問に思っていることを研究テーマとし、各講座の卒業研究論文担当の先生方のご指導により、1年次からまる2年間をかけて、研究テーマの設定や論文資料の収集、研究の立案や研究方法の選択、そして実際の実験やフィールド調査などをおこない、データを解析して論文にまとめ上げている。

1、2年生の頃は先が見えず、何のためにやっているのかわからないと思っている学生たちが、このような問題発見/問題解決学習の中で、一つの

ものを時間をかけてつくりあげ、研究成果の発表を通して大きな達成感を得ていくという、この貴重な体験は、卒業後の臨床の場においても大きな自信となって返ってくるのではないだろうか。

第3回目となる今回は、第58期生全員の研究がまとめられ、290ページにおよぶ厚い卒業研究論文集として発行され、11月27日（木）に、東京歯科大学千葉校舎の講堂で、歯科衛生士専門学校の学生全員と、論文指導の先生方やその他の参加者を集め、卒業研究発表報告会が開催された。

発表報告会はすべて3年生により運営されており、受付、座長、タイムキーパーなどの役をそれぞれがこなしていく。下野正基学校長の開催挨拶につづき、午前9時から午後4時30分まで、一演題あたり6分間のPowerPointによるプレゼンテーションと、2分間の質疑応答を含め、座長の進行のもと、学会形式での発表が行われた。フロアからの質問に、ドキドキしながら、的確に、そして時には的外れでも一生懸命に答え、3年間の学生生活の総まとめとして、緊張の中にも自信を持って堂々と発表する姿が印象的であった。

研究テーマは、基礎から臨床の広い範囲にわたっており、歯の微細構造の変化やプラークの細菌学的研究、あるいは、ブラッシングやホワイトニング、フッ化物などについての基礎的研究のほか、運動や食習慣、口腔ケア、さまざまな角度からのフィールド調査など、多彩で興味を持てるものであった。

長時間にわたる研究発表報告会は、総評のあと全員そろっての記念撮影で終了となり、夕刻から、食堂の2階でささやかな懇親会を開催し、発表までの苦労や努力の成果をお互いに分かちあいながら、なごやかに楽しい時間を過ごし閉会した。



発表報告会終了後の達成感のなかでの集合写真：平成20年11月27日（木）、千葉校舎講堂



# 人物往来

## ■国内見学者来校

### 千葉校舎・千葉病院

- 太陽歯科衛生士専門学校(学生80名、教員3名)  
平成20年12月16日(火)解剖実習室、病院見学
- 東京歯科技工専門学校(学生23名、教員2名)  
平成20年12月18日(木)、19日(金)歯科理工学実習
- さいたま柔整専門学校(学生113名、教員5名)  
平成21年1月29日(木)解剖標本室見学
- 埼玉県立常盤高等学校(学生80名、教員4名)  
平成21年1月30日(金)解剖実習室、解剖標本室見学
- 上智大学図書館(職員3名)  
平成20年12月11日(木)リポジトリ関係インタビュー、図書館見学
- 東京医科大学図書館(職員5名)  
平成21年1月19日(月)図書館システム、図書館見学

### 市川総合病院

- 市川市立菅野小学校(児童5名、教員1名)  
平成20年12月4日(木)病院見学

## ■海外出張

- 白石 建教授(市病・整形外科)  
アメリカ頸椎外科学会へ参加及び、アジア太平洋頸椎外科学会設立会議に出席のため、平成20年12月3日(水)から8日(月)まで、アメリカ・オースチンへ出張。
- 金子 譲学長、福田謙一准教授(水病・麻酔)  
台北医学大学双和病院にて招待講演のため、平成20年12月6日(土)から8日(月)まで、台湾・台北へ出張。
- 阿部伸一准教授(解剖)  
48th The American Society for Cell Biology Annual Meetingで発表のため、平成20年12月12日(金)から19日(金)まで、アメリカ・サンフランシスコへ出張。
- 大久保真衣助教(摂食・嚥下リハビリテーション・地域歯科診療支援科)  
レッドランズ大学の見学及び視察のため、平成20年12月14日(日)から18日(木)まで、アメ

リカ・カリフォルニアへ出張。

- 笠原正貴講師(歯科麻酔)  
ミャンマー連邦国にて口唇口蓋裂児への医療援助・技術指導及び学術調査のため、平成20年12月15日(月)から29日(月)まで、ミャンマー連邦国・ヤンゴン及びマンダレーへ出張。
- 薬師寺 仁教授(小児歯科)  
同済大学児童口腔医学研究所との共同研究打合せのため、平成20年12月19日(金)から23日(火)まで、中国・上海へ出張。
- 櫻井 薫教授(有床義歯補綴)  
UCLAワイントローブセンターにて、Takahiro Ogawa教授との打合せのため、平成21年1月1日(木)から5日(月)まで、アメリカ・ロサンゼルスへ出張。
- ピッセン弘子教授(水病・眼科)  
2009 Japanese Surgical Advisory Council に出席のため、平成21年1月5日(月)から9日(金)まで、アメリカ・ハワイへ出張。
- 眞木吉信教授、古賀 寛助教(衛生)  
Salt Fluoridation Study in Champasak Province Lao PDRへ参加のため、眞木教授は平成21年1月8日(木)から16日(金)まで、古賀助教は平成21年1月12日(月)から16日(金)まで、ラオス・ビエンチャンへ出張。
- 相澤光博診療放射線技師(水病・放射線科)  
International Workshop on Advanced Image Technology 2009に参加及び発表のため、平成21年1月11日(日)から13日(火)まで、韓国・ソウルへ出張。
- 阿部伸一准教授(解剖)  
Edith Cowan Universityにおいて筋組織から抽出される物質の同定に関する共同研究を行うため、平成21年1月12日(月)から24日(土)まで、オーストラリア・ジュンダラップへ出張。
- 篠崎尚史センター長(角膜センター)  
WHO執行理事会に出席のため、平成21年1月20日(火)から28日(水)まで、スイス・ジュネーブへ出張。

# 大学日誌

## 平成20年12月

- 1 (月) 教務部 (課) 事務連絡会  
大学院入学試験 (Ⅱ期) 願書受付開始  
(~2/13)  
省エネルギーの日・防災安全自主点検日
- 2 (火) 大学院事務連絡会  
看護部運営会議 (市病)
- 3 (水) リスクマネージメント部会  
ICT会議  
輸血療法委員会  
臨床検査部運営委員会  
千葉校舎課長会
- 4 (木) 一般入学試験 (Ⅰ期)・大学入試センター  
利用試験 (Ⅰ期) 願書受付開始 (~1/27)
- 5 (金) 大学院入学試験 (Ⅰ期) 合格発表  
ICT委員会 (市病)
- 7 (日) 入試ガイダンス [於：水道橋校舎]
- 8 (月) 病院運営会議  
個人情報保護委員会  
医療安全管理委員会  
感染予防対策委員会 (ICC)  
臨床教育委員会  
医局長会
- 9 (火) 粗大ゴミの廃棄 (~11日)  
臨床教授連絡会  
講座主任教授会  
人事委員会  
歯科衛生士専門学校教員会  
院内褥瘡対策委員会 (市病)
- 10 (水) 基礎教授連絡会  
大学院運営委員会  
大学院研究科委員会  
臨床検査運営委員会 (市病)  
救急委員会 (市病)  
リスクマネージメント部会 (水病)  
医療機器安全管理委員会 (水病)  
薬事委員会 (水病)
- 11 (木) 業務連絡会  
手術室運営委員会 (市病)  
口腔健康臨床科学講座会 (水病)
- 12 (金) 歯科衛生士専門学校3年生卒業試験 (15日)
- 12 (金) CPR+AED講習会 (市病)  
感染予防指導チーム委員会 (水病)
- 15 (月) 医療連携委員会  
第79回歯科医学教育セミナー  
環境清掃日・危険物・危険薬品廃棄処理日
- 16 (火) PubMed講習会  
看護部運営会議 (市病)
- 17 (水) 図書委員会  
歯科衛生士専門学校1年生前期再試験  
(~24日)
- 18 (木) 1~4年生前期追・再試験 (~24日)  
高度・先進医療委員会  
情報システム管理委員会  
千葉校舎課長会  
部長会 (市病)  
管理診療委員会 (市病)  
医療安全管理委員会 (水病)  
感染予防対策委員会 (水病)  
個人情報保護委員会 (水病)  
科長会 (水病)
- 20 (土) 5年生総合学力試験  
第24回カリキュラム研修ワークショップ  
(医師臨床研修指導医講習会) (~21日)  
ピアノコンサート (市病)
- 22 (月) 機器等安全自主点検日
- 24 (水) 予算委員会  
データ管理者会議  
カルテ整備委員会  
診療記録管理委員会  
歯科衛生士専門学校2年生前期再試験  
(~25日)  
病院連絡協議会 (水病)  
診療録管理委員会 (水病)  
サービス向上委員会 (水病)
- 25 (木) 学生冬期休暇 (~1/7)  
歯科衛生士専門学校学生冬期休暇  
(~1/7)  
院内巡視 (市病)  
院内感染症予防対策委員会 (市病)
- 26 (金) 年末学長挨拶 [於：講堂]

- |   |   |
|---|---|
| 26 (金) 年末学長挨拶 テレビ中継・仕事納めの会 (市病・水道橋校舎)   | 15 (木) 個人情報保護委員会 (水病) 科長会 (水病)  |
| 27 (土) 仕事納め (千葉校舎・市病・水道橋校舎)   | 16 (金) 千葉校舎課長会  |
| <b>平成21年1月</b>  | 17 (土) 大学入試センター試験 (～18日) 第13回公開講演会 (市病フォーラム)  |
| 5 (月) 仕事始め<br>年頭学長挨拶 [千葉校舎・市病・水道橋校舎]<br>教務部 (課) 事務連絡会<br>省エネルギーの日・防災安全自主点検日   | 19 (月) 病院運営会議<br>個人情報保護委員会<br>医療安全管理委員会<br>感染予防対策委員会 (ICC)<br>給食委員会                           |
| 6 (火) 6年生第4回総合学力試験 (～7日)<br>看護部運営会議 (市病)  | 臨床教育委員会<br>医局長会<br>医療安全研修会<br>薬事委員会 (市病)  |
| 7 (水) リスクマネージメント部会<br>ICT会議<br>千葉校舎課長会<br>武道始め<br>口腔健康臨床科学講座会 (水病)  | 20 (火) 教養科目協議会<br>機器等安全自主点検日<br>看護部運営会議 (市病)<br>院内褥瘡対策委員会 (市病)                                |
| 8 (木) 1・2・3・4年生授業再開<br>歯科衛生士専門学校授業再開  | 21 (水) 学生部 (課) 事務連絡会  |
| 9 (金) 大学院事務連絡会<br>予算事務打合せ会<br>ICT委員会 (市病)<br>感染予防指導チーム委員会 (水病)  | 22 (木) 業務連絡会<br>高度・先進医療委員会<br>院内感染症予防対策委員会 (市病)   |
| 13 (火) 臨床教授連絡会<br>医療ガス安全管理委員会<br>講座主任教授会<br>人事委員会   | 23 (金) 社保委員会 (水病)   |
| 14 (水) 基礎教授連絡会<br>大学院運営委員会<br>大学院研究科委員会<br>救急委員会 (市病)<br>CPC (市病)<br>リスクマネージメント部会 (水病)<br>医療機器安全管理委員会 (水病)<br>薬事委員会 (水病)<br>臨床検査室委員会 (水病)<br>放射線委員会 (水病)<br>医薬品安全管理委員会 (水病) | 24 (土) 5年生総合学力追・再試験   |
| 15 (木) 振替授業 (月曜日分)<br>環境清掃日・危険物・危険薬品廃棄処理日<br>部長会 (市病)<br>管理診療委員会 (市病)<br>医療安全管理委員会 (水病)<br>感染予防対策委員会 (水病)   | 26 (月) 医療連携委員会<br>第80回歯科医学教育セミナー<br>歯科衛生士専門学校一般入学試験願書受付締切<br>電子カルテシステム運用管理委員会 (診療録管理委員会) (市病) |
|   | 27 (火) 一般入学試験 (I期)・大学入試センター利用試験 (I期) 願書受付締切<br>薬事委員会<br>データ管理者会議<br>カルテ整備委員会<br>診療記録管理委員会     |
|   | 28 (水) 病院連絡協議会 (水病)<br>診療録管理委員会 (水病)<br>サービス向上委員会 (水病)  |
|   | 29 (木) 東京都エイズ診療従事者臨床研修 (～1/30)  |
|   | 30 (金) 1・2・3・4年生後期授業終了  |

## 東京歯科大学広報 編集委員

内山健志（委員長）

浦田知明 江波戸達也 王子田 啓 金安純一 河田英司 坂本智子 椎名 裕 柴家嘉明 新谷益朗  
高木直人 田口達夫 野島靖彦 伴 英一郎 橋本貞充 三木敦史 米津博文（平成21年2月現在）

### 編集後記

言葉は活字にすることにより永く受け継がれていきます。金子学長が稲毛キャンパスの講堂で述べられた仕事納めのご挨拶は、テレビ会議システムを用いて市川総合病院ならびに水道橋病院にも発信され、東京歯科大学教職員の殆どが拝聴できました。今号の広報では、そのご挨拶の説明資料が掲載されておりますので、学長のご主旨は、より多くの方々に伝わるものと思います。

さて、今号編集後記の写真は神楽坂にある善國寺です。神楽坂といえば山手線のほぼ中央というロケーションに似つかわしくない一種独特の趣がある街です。明治の初期には尾崎紅葉や泉鏡花ら多くの文士が居を構え、かの文豪、夏目漱石も一時期を過ごした、もともと文化、文芸の香りが色濃く漂う街であります。善國寺は、坂の頂上付近にあり神楽坂のシンボリック的存在になっております。また、新宿区の指定有形文化財である毘沙門天像が安置されていることから毘沙門天とも称され、山手七福神の一つに数えられています。

善國寺の向かいにある文房具屋「相馬屋」の原稿用紙は、夏目漱石、北原白秋、石川啄木、坪内逍遙など錚々たる文豪に愛されました。そのような土地柄からか、新潮社や旺文社をはじめとする出版社や、近くの市ヶ谷にある印刷会社なども含め、神楽坂周辺には本作りに携わる会社が多く存在します。それら会社は、大正、昭和は言うに及ばず、今もなお、明治時代の名作を重版して世に出しています。

わたしたちは、その恩恵により簡単に明治以来の不朽の名著を手にすることが出来ます。現代国語の基礎を創ったとも言われている、これら文豪たちが美しい日本語で著した文学は、きっと次の世代にも受け継がれていくことでしょう。

（広報・公開講座部長：内山健志）

（広報編集委員：米津博文）



善國寺（神楽坂毘沙門天）